KIORITZ

共立自走式ラジコン動噴

取 扱 説 明 書

型 式

WDR817V-14A
WDR617V-10A

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

目　次

安全にご使用いただくために 3

1 付属品の確認 6

2 各部の名称 7

3 警告表示ラベル 9

4 作業の準備 10
4-1. バッテリの取り付け 10
4-2. ホースの接続 11
4-3. ホースガイドの準備 11
4-4. ホースストッパの取り付け 12
4-5. ノズル（別売品）の接続 12
4-6. かくはん機（別売品）の取り付け 13
4-7. ホースガイド固定 14
4-8. 送信機の準備 14
4-9. 各部オイルの点検 16
4-10. 燃料の準備 17
4-11. 農薬の準備 18
4-12. エンジン運転前の確認 19
4-13. エンジンの始動 20
4-14. 各送信機ランプの確認 21
4-15. 送信機によるエンジンの始動 22
4-16. エンジンの停止 23
4-17. 送信機によるエンジンの停止 24
4-18. 走行 25
4-19. 停止 26
4-20. 輸送 27

5 作業方法 28
5-1. スプレーホースの繰り出し 28
5-2. スプレーホースの巻き取り 29
5-3. 圧力の操作 30
5-4. スロットルの操作 30
5-5. 散布作業 31
5-6. 作業終了後 33

6 点検・整備 34
6-1. 潤滑油について 34
6-2. 各部の点検 35
6-3. 各部の注油・給油 36
6-4. 走行ミッションオイルの交換 36
6-5. エンジン減速機オイルの点検・交換 37
6-6. ポンプベルトの点検・調整 37
6-7. トラバースチェーンの点検・調整 38
6-8. 繰り出しチェーンの点検・調整 38
6-9. ホースリールベルトの点検・調整 38
6-10. 走行ミッションのベルト点検・調整 39
6-11. 移動枠駒の交換 39
6-12. タイヤの点検 40
6-13. ヒューズの交換 40
6-14. ホース類の点検 40
6-15. バッテリの点検・清掃・交換 41

7 保管 42

8 故障対策 43
8-1. 故障診断表 43
8-2. 製品の破棄 44

9 仕様 45

10 配線図 46

安全にご使用いただくために

警告表示について

⚠ 危険	⚠ 警告	⚠ 注意
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。	**その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。**	**その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。**

その他の表示について

	丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表します。

重要
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている製品の使用、点検、保守、保管に関する重要な注意事項です。

シンボルマークについて

シンボルマーク	意味	シンボルマーク	意味
	ご使用前に取扱説明書を読み、正しく作業すること		「挟まれ」に注意すること
	作業中は保護具を必ず着用すること		回転部の「巻き込まれ」に注意すること
	通気の悪い場所で製品を使用しないこと		「毒性」に注意すること
	「火災」に注意すること		「高温部」に注意すること
	「電気ショック」に注意すること		薬害や環境汚染に十分に配慮し、薬液は必ず使い切ること

安全にご使用いただくために

重要なお知らせ

⚠ 警告

製品をご使用になる前に、取扱説明書を必ずお読みください

取扱説明書



- **この取扱説明書には、製品の組み立てや操作、点検・整備に必要な事項が書かれているので、よく読んで理解してください。**
- **この取扱説明書は、いつでも読めるように保管してください。**
- **製品の改良のため、予告なしに内容を変更することがあります。**
- **使用している図は説明をわかりやすくするため、現品と異なる場合があります。**
- **損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から購入してください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用目的以外の使用禁止

- **この製品は、液剤散布作業をするためのものです。**
- **本書に記載されている用途以外に使用しないでください。**
- **日本国内でのみ使用してください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の改造禁止

- **製品を改造しないでください。**

事故や重傷を負う原因となります。

点検・整備をしていない製品の使用禁止

- **定期的な点検・整備をしてください。**
- **カバーを外したままで運転しないでください。**
- **回転部に手を入れないでください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の貸与、譲渡

- **製品を貸すとき、借りて作業する人に取扱説明書を読ませ、十分な指示、訓練を行った後、取扱説明書と製品を貸与してください。**
- **製品を貸すとき、譲るときは、この取扱説明書も渡してください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用者



- **体調不良、疲労している、酒類を飲んでいる、薬物を服用しているなど、体調が万全でないときは使用しないでください。**
- **次のような人は使用しないでください。**
  - **妊娠している人**
  - **農薬の影響を受けやすい人**
  - **16 歳未満の人**
  - **取扱説明書の内容を理解していない人**

事故や重傷を負う原因となります。

保証書

- **使用目的以外の作業による製品の故障、あるいは改造による故障の場合は、メーカー保証の対象外になりますのでご注意ください。詳しくは保証書をお読みください。**

安全にご使用いただくために

⚠ 警告

健康管理

- **休憩をとりながら余裕を持って作業してください。**
- **長時間の連続作業は避け、2 時間を限度にしてください。**

健康障害を受ける恐れがあります。

- **作業中や作業終了後、身体に異常を感じたときは医師の診察を受け、使用した農薬の種類を告げてください。**

処置が遅れることにより、健康障害につながることがあります。

保護具の着用

- **農薬散布時は、適切な衣類と正しい保護具を身に付けてください。農薬に直接触れないでください。**

農薬に触れたり吸引すると、薬害事故を負う原因となります。

- **首にタオルを巻いたり、腰てぬぐいをしないでください。**

回転部に巻き込まれて、事故の原因となります。

- **作業中に着た服は、他の衣服と別に洗ってください。**

薬害の原因となります。



製品の使用環境・作業環境

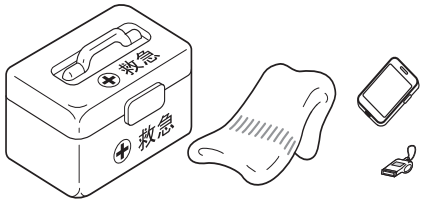
- **次のような場合は製品を使用しないでください。**
  - **降雨時や落雷の恐れがあるとき**
  - **急傾斜地や足元が不安定で滑りやすい場所**
  - **夜間や視界が悪い場所**

転倒や滑落、誤った操作などにより重傷を負う原因となります。

事故やケガへの備え

- **事故やケガに備え、下記の用具を用意してください。**
  - **救急箱（応急手当用）**
  - **タオルやてぬぐい（止血用）**
  - **呼子や携帯電話（外部との連絡用）**

応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化する恐れがあります。



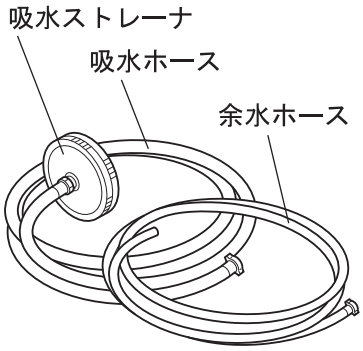
発火・発煙・火災への備え

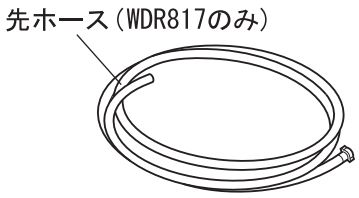
- **発火・発煙・火災に備え、消火器やシャベルを用意してください。**
- **エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、製品から離れ、身体の安全を確保してください。**
- **周囲に類焼しないようにシャベルで砂などをかけるか、消火器で消火してください。**

あわてて対処しようとすると、火災やその他の傷害の拡大につながります。

1. 付属品の確認

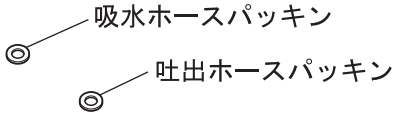
❍ 欠品や破損などがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。





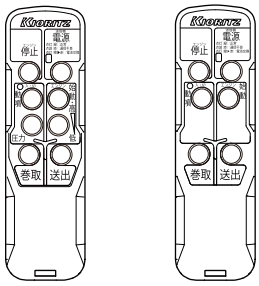
WDR817:
吸水ホースパッキン(1)
吐出ホースパッキン(1/4, 1/2)

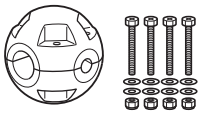
WDR617:
吸水ホースパッキン(1)
吐出ホースパッキン(3/8, 1/4, 1/2)



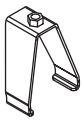


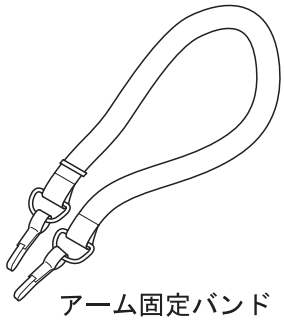






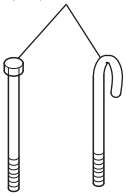


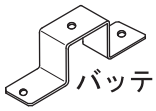






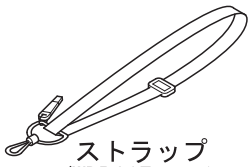


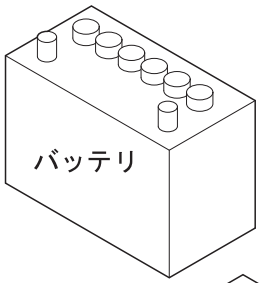


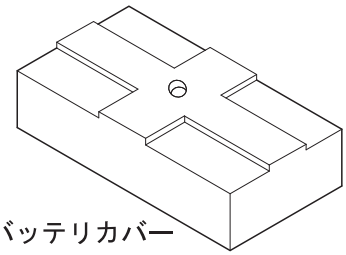


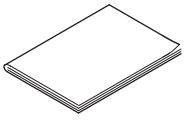


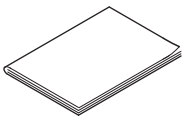


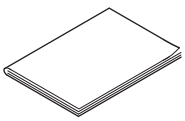


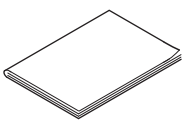


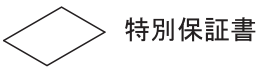


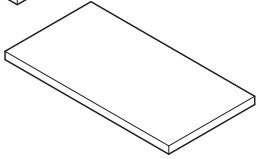


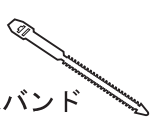


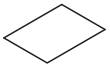






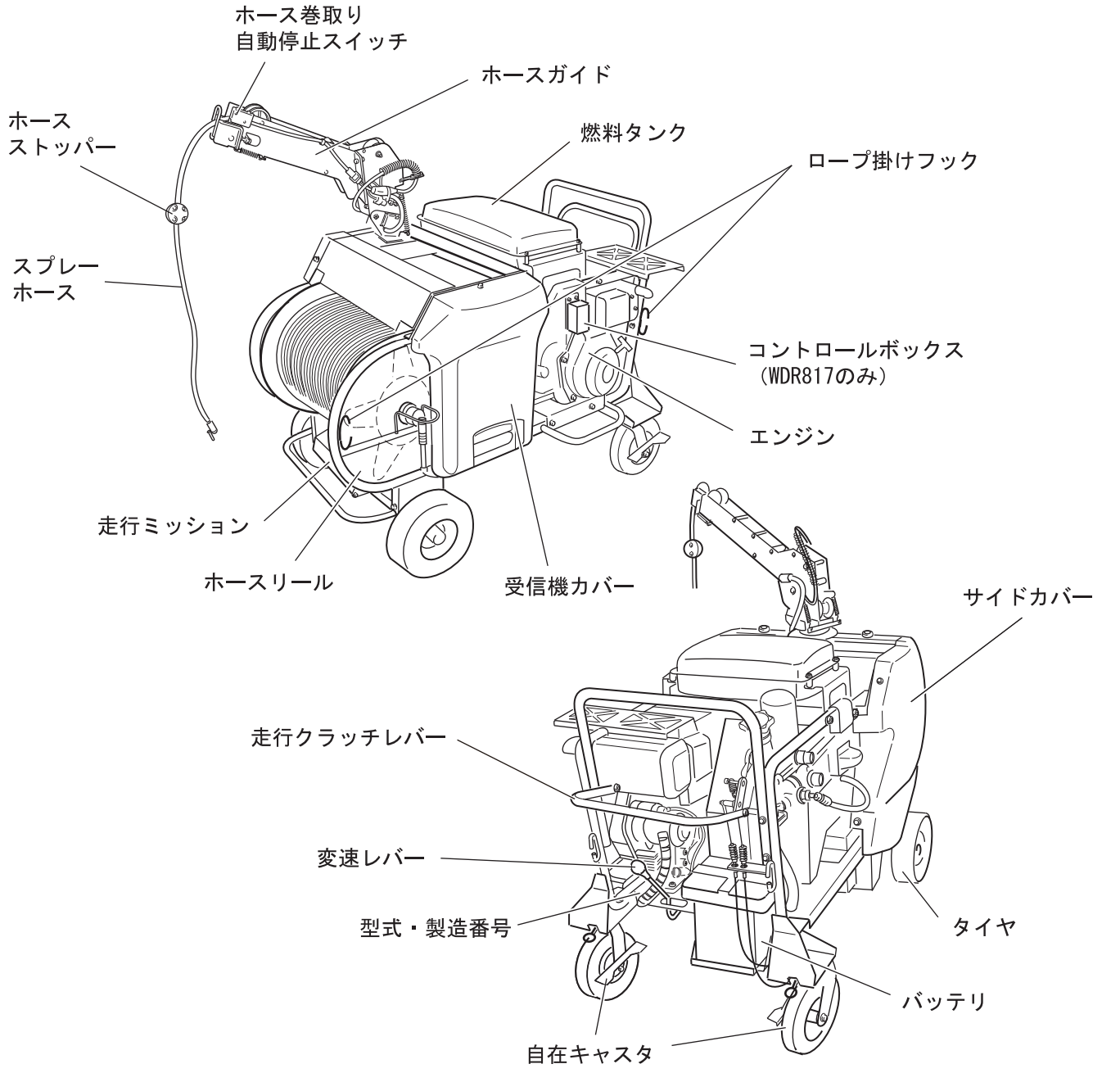


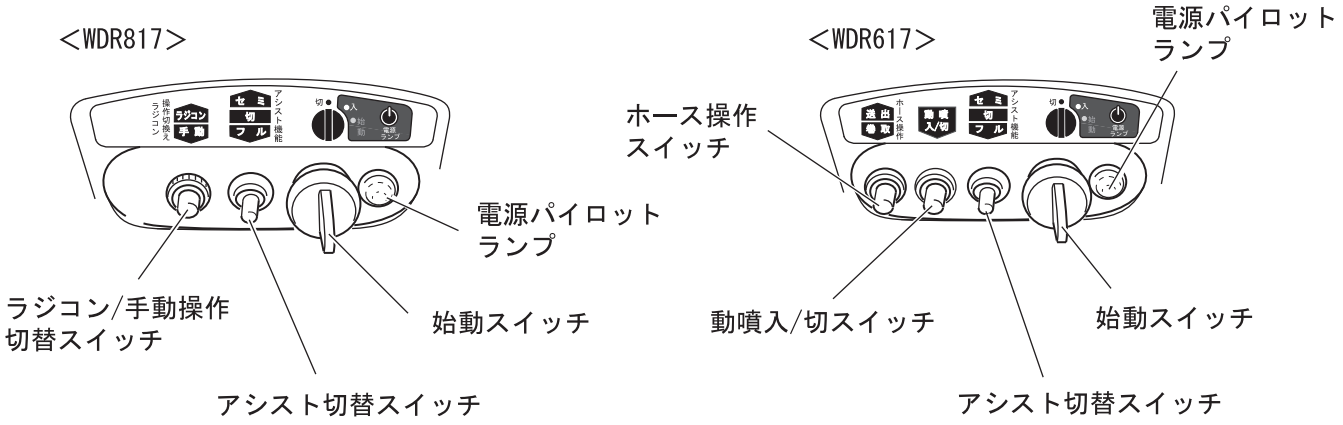




2. 各部の名称

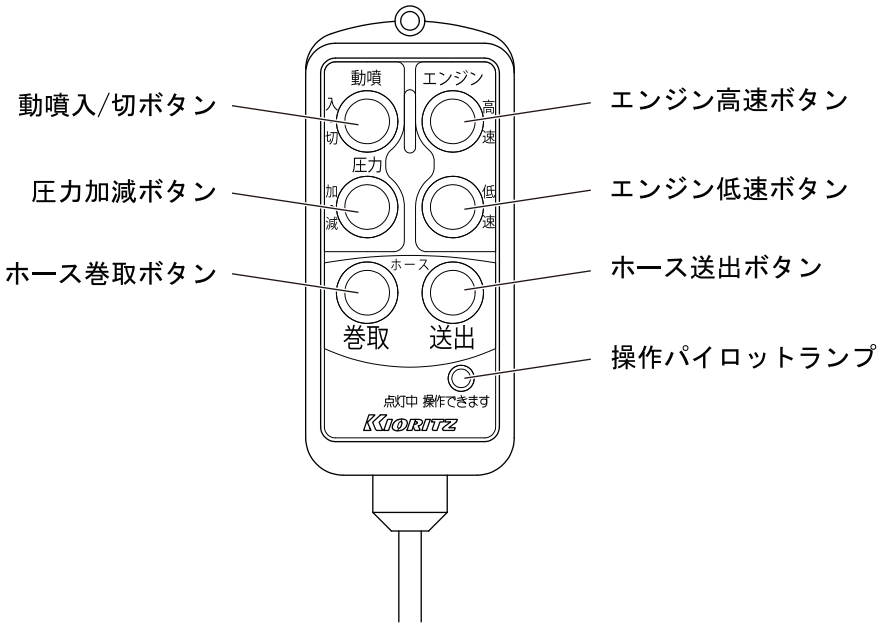
❍ 本書で説明している製品の各部の名称を示しています。ご使用前に各部の名称を理解してください。





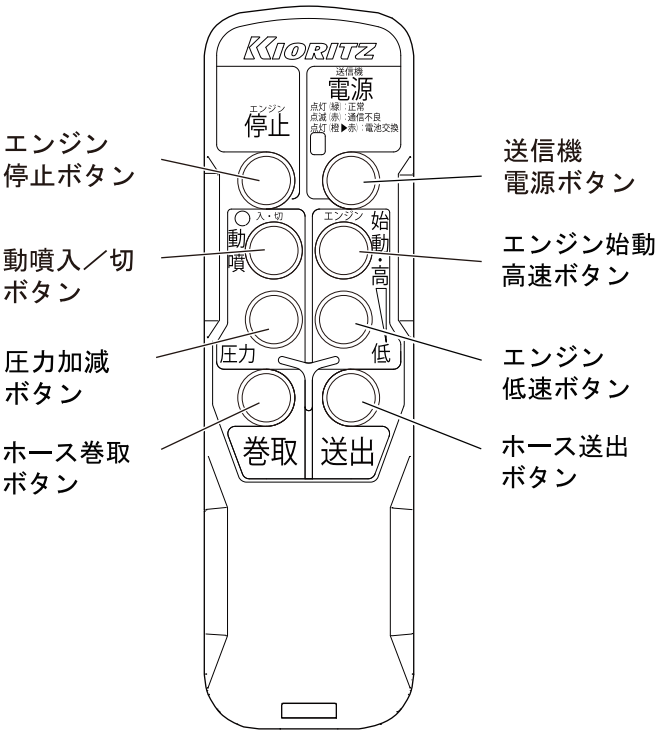
2. 各部の名称

コントロールボックス（**WDR817**のみ）

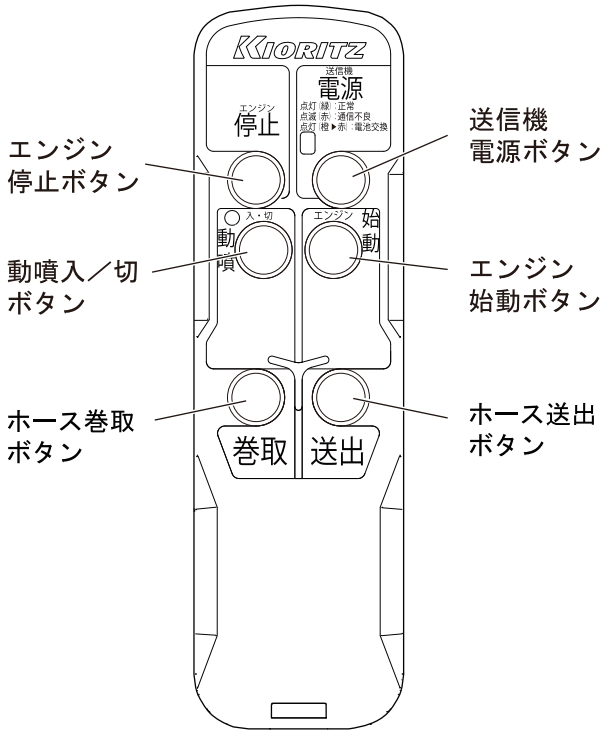


送信機

WDR817



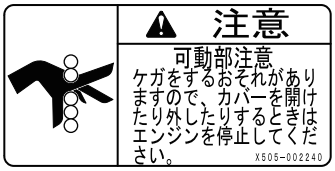
WDR617



3. 警告表示ラベル

❍ 本書で説明している製品の警告表示ラベルを示しています。ご使用前にラベルの意味を理解してください。
❍ ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店からラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

1.



部品 No, X505-002240

2.



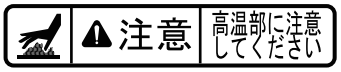
部品 No, X505-001470

3.



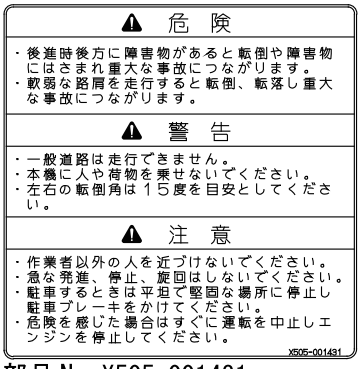
部品 No, X505-002390

4.



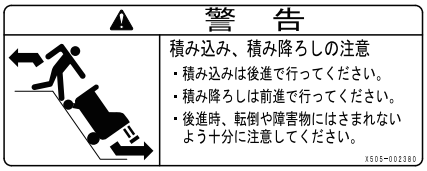
部品番号 890157-55630

5.



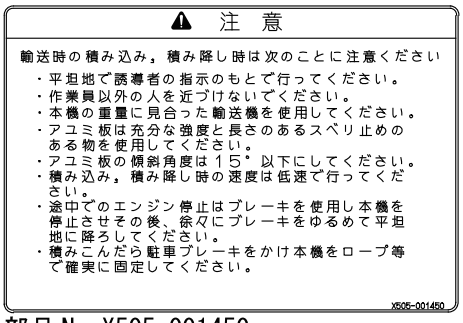
部品 No, X505-001431

6.



部品 No, X505-002380

7.



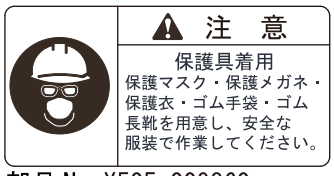
部品 No, X505-001450

8.

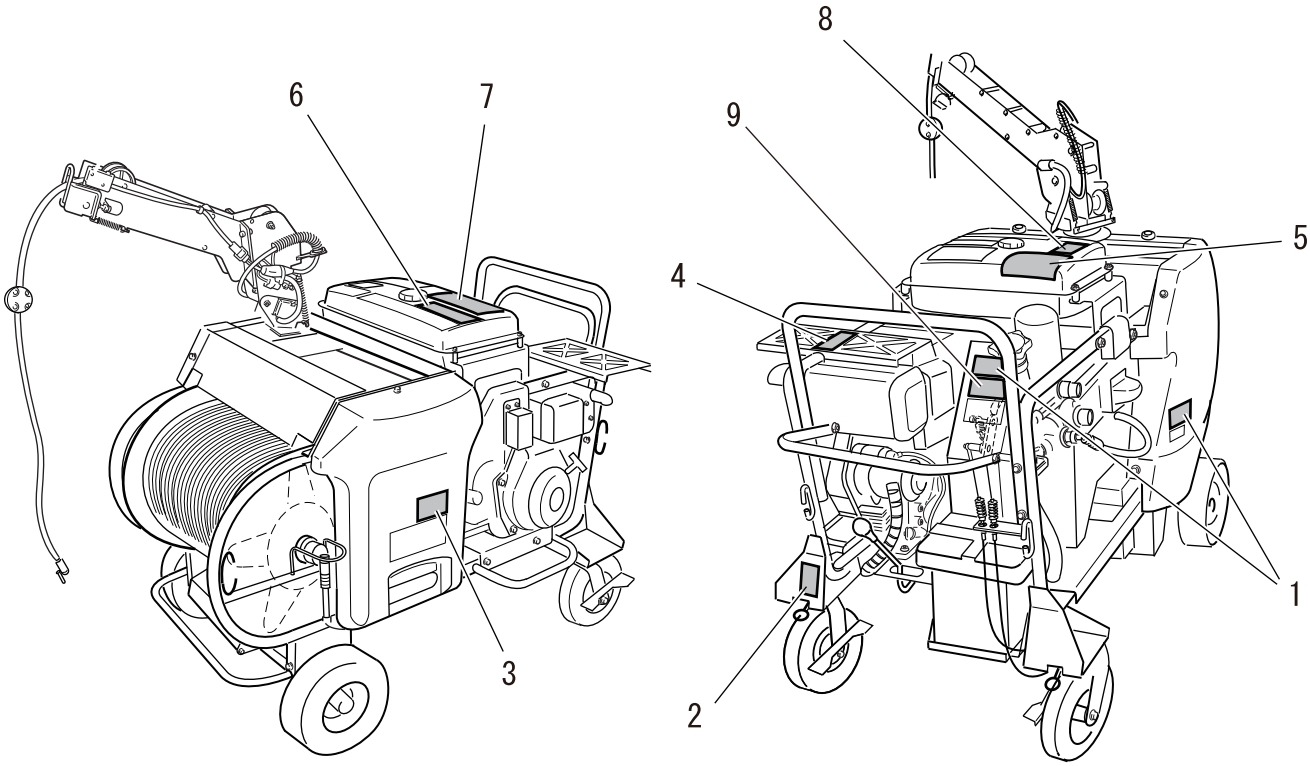


部品 No, X505-002220

9.



部品 No, X505-009860



4. 作業の準備

4-1. バッテリの取り付け

⚠ 危険

- **バッテリ液、火気などに十分注意してください。**
- **バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下の状態で、使用または充電をしないでください。**

  バッテリの劣化を早め、破裂（爆発）の原因となります。

- **バッテリ端子は、押え金具などの金属部分に近づけないように接続してください。**
- **（+）端子にカバーをしてください。**
- **バッテリやバッテリカバーの上には物を置かないでください。**

  接触（ショート）すると引火爆発や火災の原因となります。

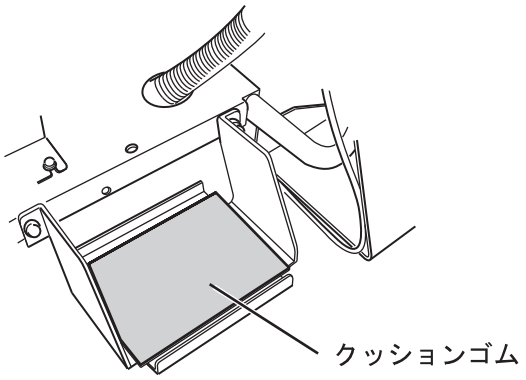
⚠ 警告

- **製品にバッテリを取り付けるときは、バッテリ液の液漏れに注意してください。**

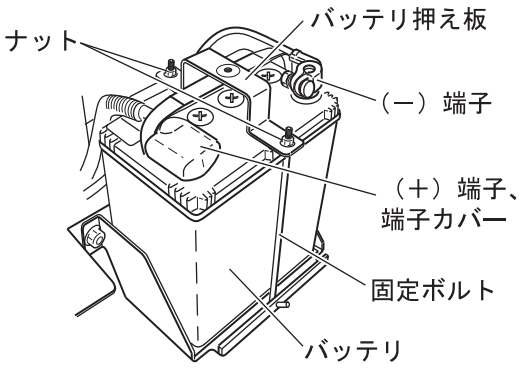
  バッテリ液に触れると火傷をしたり、目に入ると失明する原因となります。

重要

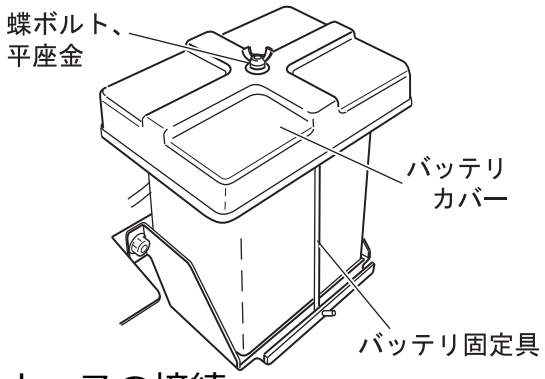
- バッテリの取扱説明書をよく読んでから取り付けてください。
- 製品の電気制御部分のトラブルを防ぐため、バッテリを充電しておくことをお勧めします。



1. バッテリー台に付属のクッションゴムを置き、その上にバッテリーを乗せてください。



2. （+）端子をバッテリターミナルの（+）側に接続して、端子カバー（赤色）をかぶせてください。
   * ターミナルは（+）側の方が径が太くなっています。
3. （−）端子をバッテリターミナルの（−）側に接続してください。
4. バッテリー押さえ板をバッテリー中央に乗せてください。固定ボルトとナットで固定してください。

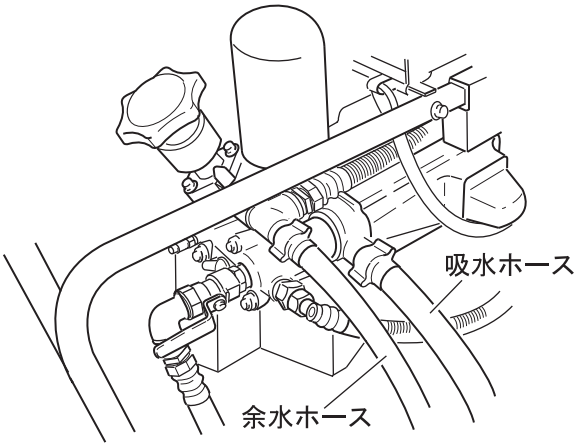


5. バッテリカバーをバッテリ押さえ板に乗せてください。平座金と蝶ボルトで確実に固定してください。

4-2. ホースの接続

⚠ 警告

❍ **ホースが劣化したり漏れがあるときは取り替えてください。**
薬害事故を負う原因となります。



1. 接続金具のパッキンを確認して、動噴に吸水ホースを接続し、ストレーナを接続し、ストレーナを水没させてください。
2. パッキンを確認して動噴に余水ホースを接続し、ホース先端を水没させてください。

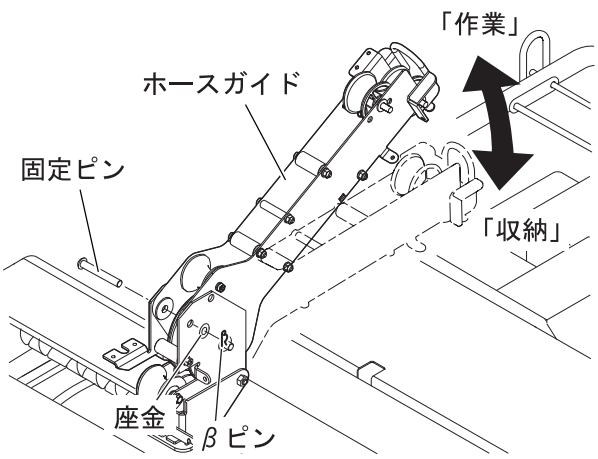
⚠ 注意

❍ **余水ホースは束ねバンドで固定してください。**
圧力切替え操作時に、余水ホースがあばれて薬液をかぶり、薬害事故を負う恐れがあります。

重要

❍ ホースの接続金具は強く締め過ぎないでください。パッキンが損傷する恐れがあります。
❍ ホースは無理に曲げたり、ねじれがないよう取り付けてください。

4-3. ホースガイドの準備



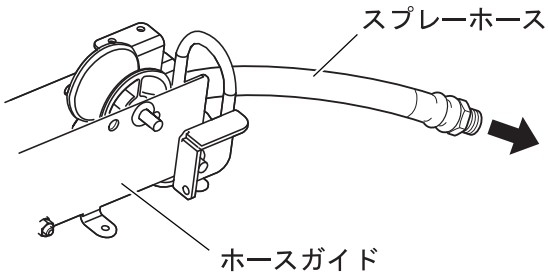
1. 「収納」位置のホースガイドの固定ピンを外してください。
2. 「作業」位置にホースガイドを起こし、固定ピンを確実に組み付けてください。

重要

❍ 「作業」位置以外でホースガイドを使用しないでください。ホース繰り出し時にホースがはみ出し破損する恐れが有ります。

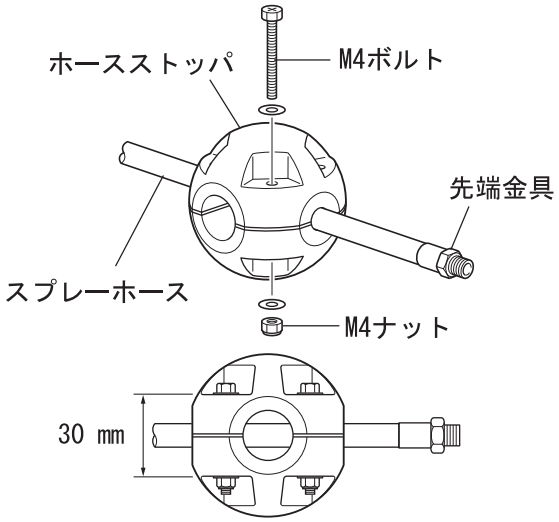
4. 作業の準備

4-4. ホースストッパの取り付け



1. スプレーホース先端のヨリモドシとコックを外してから、スプレーホースをホースガイド内に通し、引き出してください。
2. 下表を参照して、取り付けられているスプレーホースの内径に適したホースストッパの表示を合わせてください。

スプレーホース内径 (mm)	8.5	10.0	13.0
		11.5	14.0
ホースストッパ表示	9.0	13.0	17.0

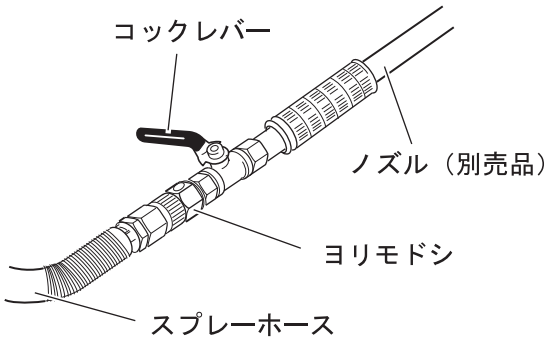


3. 先端金具から 3 m のところでホースストッパにスプレーホースを挟み込んでください。
4. 図のようにホースストッパの 4 箇所を M4 ボルト、M4 ナットで組り付けてください。ボルト・ナット間が 30 mm 程度になるまで締め込み、固定してください。

重要

❍ ホースストッパは必ず取り付けてください。
ホース巻き取り時に誤作動が生じた場合、巻き込みを防止します。

4-5. ノズル（別売品）の接続



1. コックレバーを「閉」位置にしてください。
2. 接続金具パッキンの確認をしながら、
スプレーホース、ヨリモドシ、コックレバー、ノズル（別売品）の順に接続してください。

※ 別売りの肩掛け、腰掛けバンドをホースに付けて使用する際は、付属の先ホースを使用してください（WDR817 のみ）。
スプレーホース、ヨリモドシ、各バンド（別売り）、先ホース、コックレバー、ノズル（別売り）の順に接続してください。

＊ スプレーホースの継手ネジは ＩＳＯ 規格です。
接続ネジの適合性を確認してください。
＊ 標準装備しているスプレーホースは耐圧力 5.0 MPa (50 kgf/cm^2) です。
＊ 無理な曲げ、引っ張り、折れ、ねじれがないようにしてください。

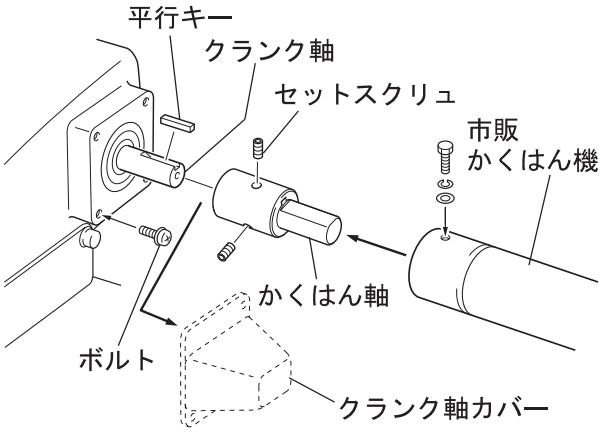
重要

❍ 適正な圧力を保つために、散布用ノズルの総吐出量は、動噴の吸水量 90 % 以下で使用してください（余水量 10 % 以上）。

4-6. かくはん機（別売品）の取り付け

⚠ 注意

❍ **かくはん機を取り付けないときは、クランク軸カバーを取り付けてください。**
ケガをする恐れがあります。



❍ かくはん機は「右回転用」ワイヤかくはん機を使用してください。

❍ 取り付け方法

1. 動噴のクランク軸カバーのボルト 2 本を取り外してください。クランク軸カバーを取り外した後、ボルト 2 本を再度締め付けてください。
   ＊ 締め付けないと、動噴のオイルが漏れます。
2. クランク軸に平行キーを取り付け、かくはん軸を挿入し、セットスクリュで固定してください。
3. かくはん軸にかくはん機を取り付け、ボルトで固定してください。

❍ 別売品

WDR617

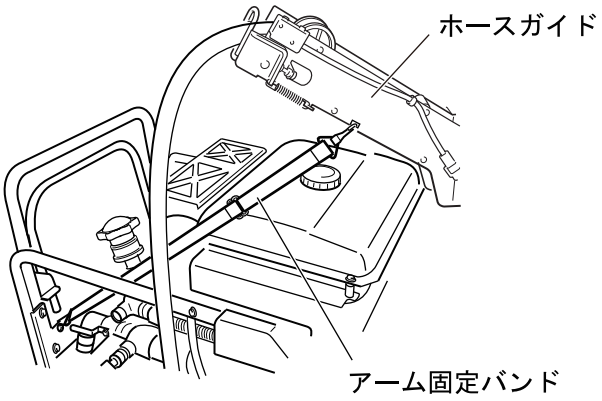
部品名称	部品番号	個数
かくはん軸	K230-000041	1
平行キー	900325-05030	1
セットスクリュ	900172-06012	2

WDR817

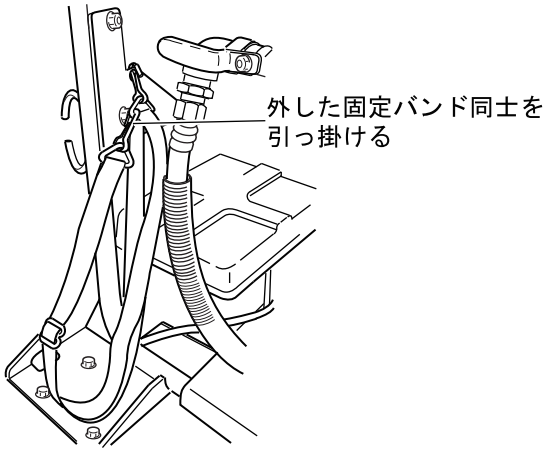
部品名称	部品番号	個数
かくはん軸	K230-000070	1
平行キー	900325-07030	1
セットスクリュ	900172-06012	2

＊ かくはん機の種類により、かくはん機用延長軸が必要な場合があります。ご不明な点は製品をお買い求めの販売店にご相談ください。

4-7. ホースガイド固定



1. 作業時以外は付属のアーム固定バンドでホースガイドを固定してください。



2. 作業を開始する前に、アーム固定バンドはホースガイドから外し、固定バンド同士を引っ掛けてください。

4-8. 送信機の準備

⚠ 注意

❍ **送信機の乾電池は、動作が不調と感じたら交換してください。**

消耗した乾電池を使用すると誤作動により、事故になる恐れがあります。

❍ **長時間使用しないときは乾電池を取り外してください。**

重要

❍ アルカリ単三乾電池を使用してください。

❍ アルカリ乾電池の使用時間は、約 84 時間です。長時間使用して頂ける、アルカリ乾電池の使用をお勧めいたします。

充電池は低電圧なため、使用時間が短くなります。

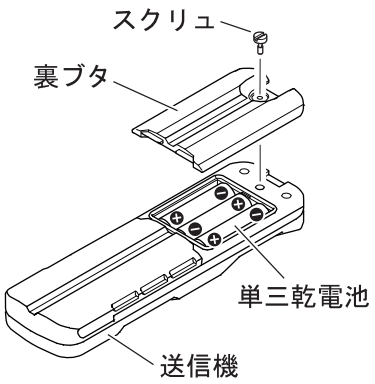
❍ 乾電池は 3 本同時に新品と交換してください。

消耗した乾電池を使用すると、送信機の操作ができなくなったり、送信機が故障する恐れがあります。

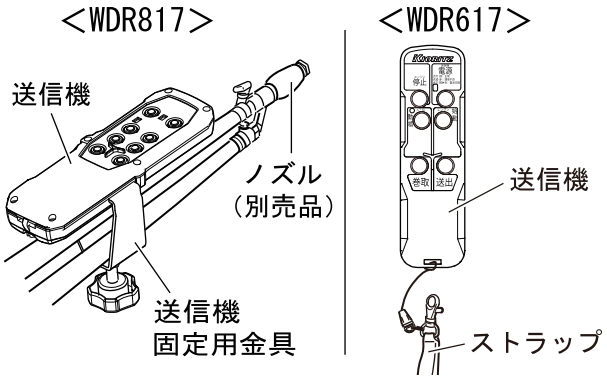
❍ 乾電池と充電池は混ぜて使用しないでください。

電池容量の低い電池にダメージが加わり、劣化や液漏れの原因となります。

4. 作業の準備



1. 硬貨などでスクリュをゆるめ、裏ブタを取り外してください。単三乾電池 3 本の (＋)(－) を間違えないように入れてください。

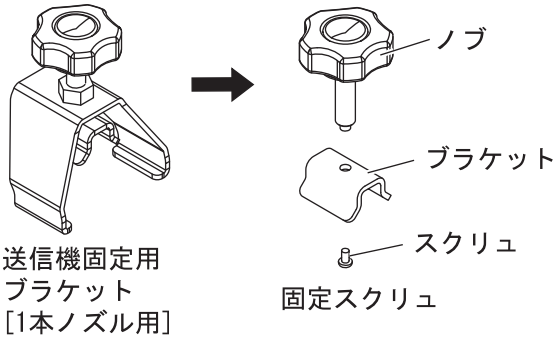


＊ WDR617は送信機に付属のストラップを取り付けてください。

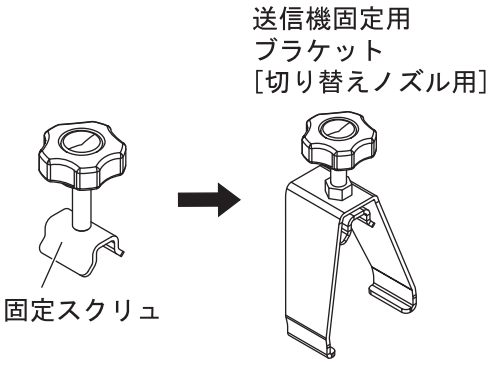
また、オプションで送信機固定用ブラケットが設定されています。ご購入は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

重要

- ❍ 水をかけたり、水没させたりしないでください。
- ❍ 自動車内などの高温多湿になる場所に保管しないでください。
- ❍ 落としたり衝撃を与えないでください。故障の原因となります。また、電源が切れることがあります。そのような場合には電源を入れ直して操作してください。



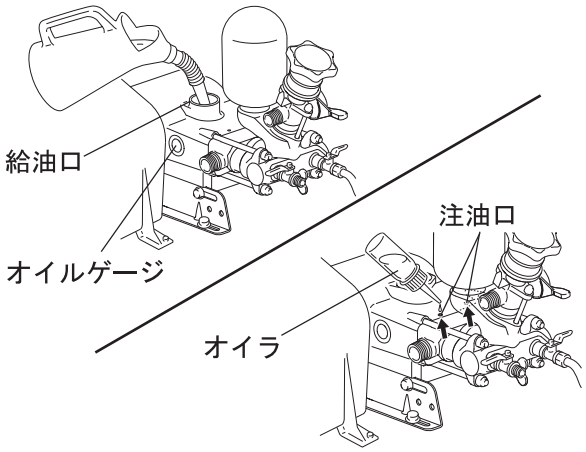
1. ノズル（別売品）に送信機を取り付けるときは、送信機固定用ブラケットを使用してください。
2. 送信機固定用ブラケット（切り替えノズル用）には固定スクリュが付いていません。切り替えノズルで作業する時は、送信機固定用ブラケット（1 本ノズル用）から固定スクリュ（ブラケット、スクリュ、ノブ）を外してください。



3. 固定スクリュを切り替えノズル用に組み替えて使用してください。ノブを確実に締め付けてください。

4-9. 各部オイルの点検





1. 製品を水平な場所に置いてください。
2. エンジンの取扱説明書を参照して、クランクケースにオイルが正規油面まで入っているか確認してください。
3. オイルの汚れを点検し、汚れがひどい場合には交換してください。
4. 使用毎にオイルゲージで油量を確認してください。

重要

- ❍ 正規油面より多く入れるとオイルが吹き出ることがあります。
- ❍ エンジンのオイルゲージは確実に締め付けてください。締め付けがゆるいとオイルがもれることがあります。

5. 動噴の取扱説明書を参照して、使用毎にオイルゲージで油量を確認してください。
6. 注油口（2 箇所）に付属のオイラで 10 滴程注油してください。
   * 使用毎に注油すれば、水シールの寿命が長くなります。
7. 点検・整備の項目を参照して、各部オイルの点検・交換をしてください。(34 ページ参照)

4. 作業の準備

4-10. 燃料の準備

⚠ 危険

❍ 燃料はエンジンを停止し、エンジンが冷えてから補給してください。
❍ 補給中にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負うことになります。



⚠ 警告

❍ 燃料補給前に必ず静電気を逃がしてください。
❍ 燃料補給時に金属製の漏斗（ろうと）を使用しないでください。

静電気が燃料に放電して、火災の原因となります。

❍ 燃料は風通しの良い場所で、製品と補給用タンクを地面に置いて補給してください。
❍ 燃料を燃料タンクの口元まで入れないでください。
❍ 燃料が少しでもこぼれたら必ず拭き取ってください。ただし湿度が低いときは、乾いた布で拭くと静電気を帯びやすいので、水を湿らせた布で拭き取るようにしてください。
❍ 燃料経路周辺が損傷したり、燃料の漏れ、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
❍ 補給用タンクは火気のない日陰に置いてください。
❍ 燃料を運搬する際は鋼板製の携行缶を使用してください。
❍ 余った燃料は鋼板製の携行缶で保管してください。

燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負う原因となります。

❍ 燃料を補給した場所でエンジンを始動しないでください。
❍ エンジンを始動するときは、特に次のことを守ってください。

- **製品を平坦で通気の良い、可燃物のない場所に置く**
- **燃料が漏れていないか確認**

火災の原因になります。

❍ エンジンの排気ガスには、有毒なガスが含まれています。屋内など通気の悪い場所で製品を運転しないでください。
❍ 屋内でやむをえず運転するときは、窓や戸を開けて換気をしてください。

排気ガスによる中毒事故の原因となります。



1. 燃料タンクのキャップを開け、燃料を入れてください。
2. 補給後は、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。

4. 作業の準備

4-11. 農薬の準備

⚠ 警告

農薬の取り扱い

- **農薬ラベルをよく読み、必ず記載されている事項を確認してください。**
- **製品ならびに農薬の知識を持った人が、農薬を取り扱ってください。**

  農薬の誤った使用は、重大な薬害事故の原因となります。

- **農薬は残らないよう調製し、必ず使い切ってください。**

  第三者が農薬と知らずに誤って飲み込むなど、重大な薬害事故を引き起こす恐れがあります。

農薬使用上の注意

- **農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用して、農薬に直接触れないでください。**
- **農薬が目に入らないようにしてください。**
- **作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。**
- **誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は直ちに吐き出して、医師の手当てを受けてください。**
- **農薬使用中に異常を感じたときは、作業を中止し、直ちに医師の手当てを受けてください。**
- **薬害や環境汚染を起こさないように十分配慮してください。**
- **農薬の種類によっては、**
  - **農薬が目に入った場合は直ちに水洗いし、眼科医の手当てを受けてください。**
  - **かぶれを生ずる場合があるので注意してください。かぶれやすい人は使用を控えてください。**

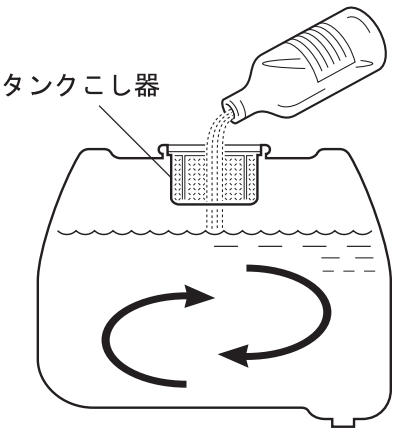
薬液の取り扱い

- **薬液はタンクからあふれるほどの量を入れないでください。また、こぼれた薬液はすぐに拭き取ってください。**

  こぼれたり漏れた薬液は、放置しておくと薬害の原因となります。

- **子供の手の届かない場所に保管してください。**

■ 農水省、環境省令に定める「農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令」に従い、農薬は正しくお取り扱いください。詳しくは農林水産省のホームページをご参照ください。



- 薬液タンクなどをご用意ください。
  - 薬液の調製時には、保護具（5 ページ参照）を着用してください。
  - 薬液タンクで調製し、外部にこぼさないようにして、十分かくはんしてください。

⚠ 警告

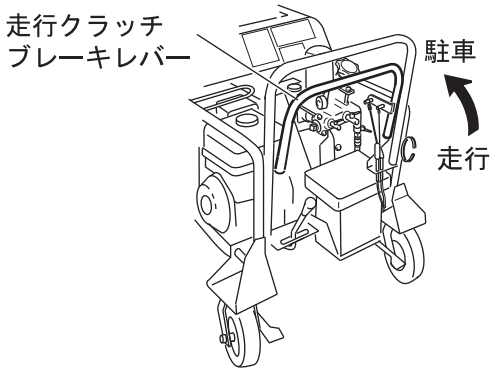
- **飲料水源、河川、湖沼から直接給水することは避け、専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。**

  薬害を引き起こす原因となります。

重要

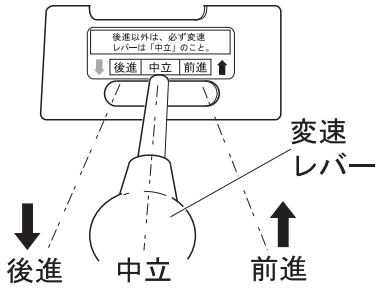
- 薬剤は濃度が均一になるように溶かしてください。固まりが残ると、ノズルの目詰まりの原因になります。

4-12. エンジン運転前の確認

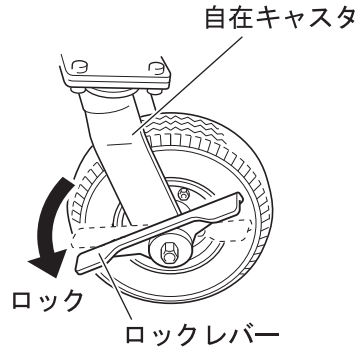


エンジンを運転する前に、各部を以下の位置にしてください。

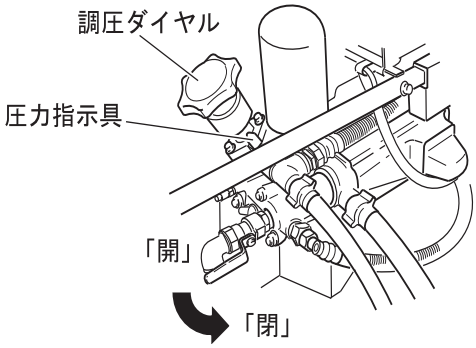
1. 走行クラッチブレーキレバーを「駐車」位置にしてください。



2. 変速レバーを「中立」位置にしてください。

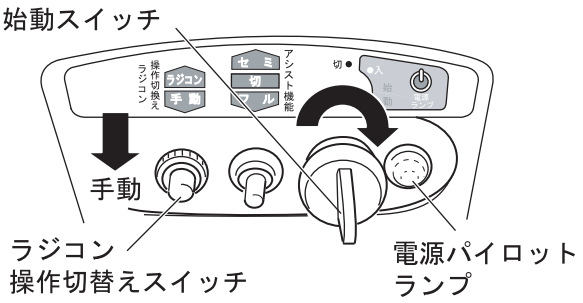


3. 自在キャスタのロックレバーを「ロック」位置にしてください。

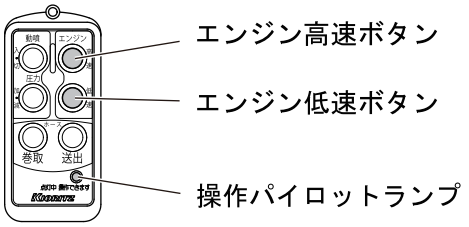


4. 散布コックを「閉」位置にしてください。
5. 調圧ダイヤルの「始動」位置を圧力指示具に合わせてください。

4-13. エンジンの始動

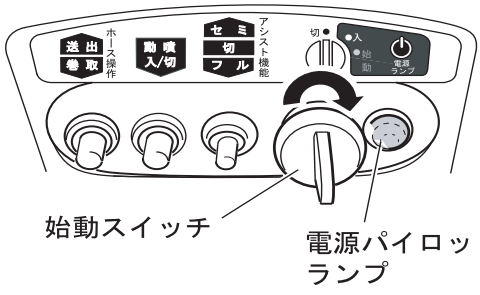


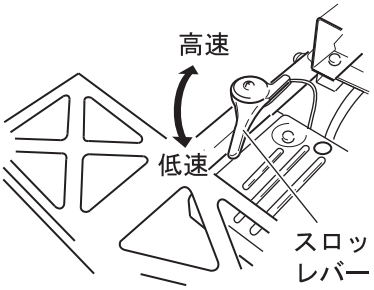
コントロールボックス



WDR817

1. ラジコン操作切替えスイッチを「手動」位置にしてください。
2. 始動スイッチを「入」位置にしてください。
3. 電源パイロットランプが点灯したことを確認してください。
   * パイロットランプが点灯し数秒後に操作可能となります。
4. コントロールボックスのエンジン高速ボタンを押し続けてエンジン回転を高速にしてください。
5. 始動スイッチを「始動」位置にしてエンジンを始動してください。
   *「始動」位置のスタータモータ連続運転は 10 秒以内にしてください。
6. エンジン始動後、始動スイッチより手をはなしてください。始動スイッチは自動的に「入」位置に戻ります。
7. コントロールボックスのエンジン低速ボタンを押してエンジン回転を中速にし、5 分間暖機運転をしてください。

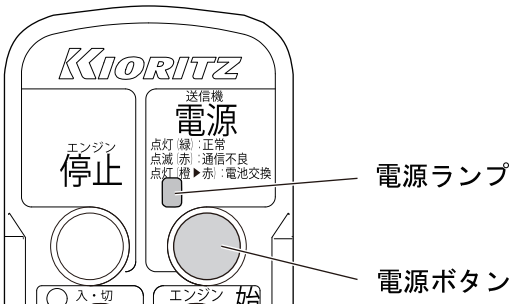




WDR617

1. 始動スイッチを「入」位置にしてください。
2. 電源パイロットランプが点灯したことを確認してください。
   * パイロットランプが点灯し数秒後に操作可能となります。
3. スロットルレバーを「高速」位置にしてください。
4. 始動スイッチを「始動」位置にしてエンジンを始動してください。
   *「始動」位置のスタータモータ連続運転は 10 秒以内にしてください。
5. エンジン始動後、始動スイッチより手をはなしてください。始動スイッチは自動的に「入」位置に戻ります。
6. スロットルレバーを「中速」位置にして、5 分間暖機運転をしてください。

4-14. 各送信機ランプの確認



電源ランプの確認

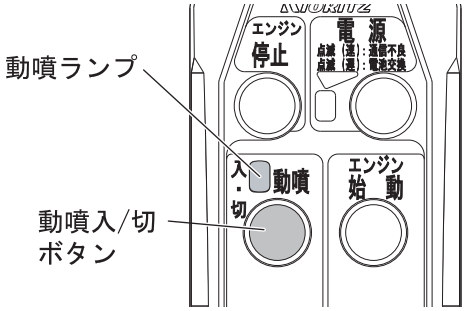
送信機の電源、電池残量、通信状態を表します。

本機の始動スイッチが「切」の状態

- 電源ボタンを押すとランプが点灯（緑色）します。通信できないため点滅（赤色）し、送信機電源は自動で切れます。これ以上操作できません。

本機の始動スイッチが「入」の状態

- 消灯：送信機の電源が「切」の状態
- 点灯：正常に使用できます
- 緑色：電池残量 約 20 ～ 100%
- 橙色：電池残量 約 10 ～ 20%
- 赤色：電池残量 約 0 ～ 10%（約 2 時間使用可能）
- 点滅（赤色）：ラジコンの通信が失敗または通信状態が不安定です。この状態が続くと送信機電源は自動で切れます。
- オートパワー OFF：本機の電源が「入」の状態で、30 分間操作されないと自動的に電源が切れます。



動噴入 / 切ランプ説明

ランプの消灯、点灯で送信機から本機の動噴の状態がわかります。

- 消灯：動噴切
- 点灯：動噴入

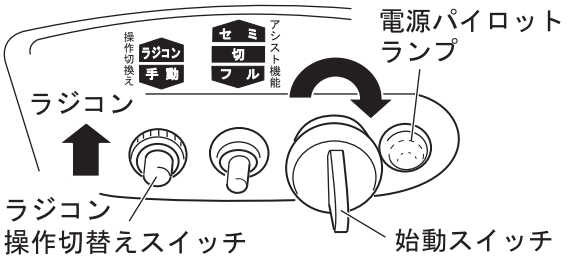
重要
❍ ボタンは、ひとつずつ押してください。 ボタンの同時押し「電源、停止」、「電源、送出」、「電源、停止、巻取」は、設定モードになり、条件が変更され使用できなくなります。その際は、販売店へ修理を依頼してください。

4-15. 送信機によるエンジンの始動

⚠ 注意

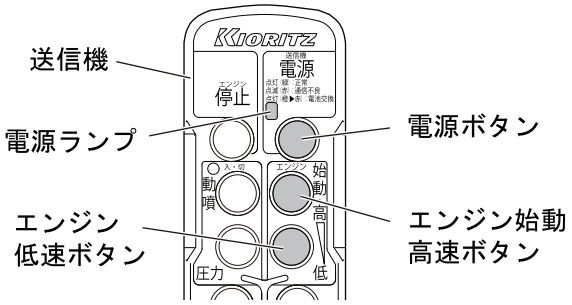
❍ **周辺環境に電波障害を与える恐れがある場合には、使用しないでください。**
他の機械の誤作動の原因となる恐れがあります。

本製品は送信機によるラジコン操作を行なうことができます。



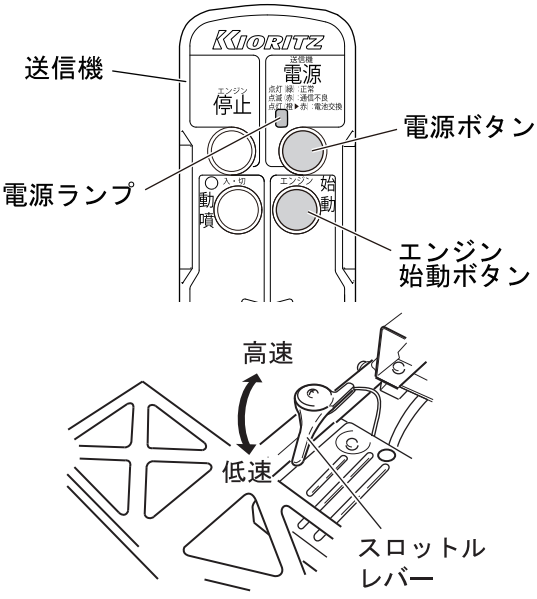
WDR817

1. ラジコン切替えスイッチを「ラジコン」位置にしてください。
2. 始動スイッチを「入」位置にしてください。電源パイロットランプが点灯します。
3. 送信機の「電源」ボタンを押してください。電源ランプが点灯したことを確認してください。
   ＊ このとき本機の始動スイッチが「入」状態でないと電源ランプは消灯します。
4. 送信機のエンジン始動高速ボタンを押してください。
5. 受信するとスタータモータが約 3 秒間回り、エンジンを始動させます。
6. エンジン始動後、エンジン始動高速ボタンから手を離してください。
   ※ ボタンを押し続けるとエンジン始動後、最高回転に達します。
7. 送信機のエンジン低速ボタンを押して、エンジン回転を中速にして 5 分間暖機運転をしてください。



WDR617

1. 始動スイッチを「入」位置にしてください。電源パイロットランプが点灯します。
2. 送信機の「電源」ボタンを押してください。電源ランプが点灯したことを確認してください。
   ＊ この時、本機の始動スイッチが「入」状態でないと、電源ランプは消灯します。
3. スロットルレバーを「高速」位置にしてください。
4. 送信機の「エンジン始動」ボタンを押して、ボタンから手を離してください。ボタンを押し続ける必要はありません。
5. 受信するとスタータモーターが約 3 秒間回り、エンジンを始動させます。
6. スロットルレバーを「中速」位置にして 5 分間暖機運転してください。



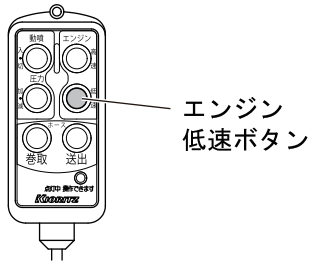
重要

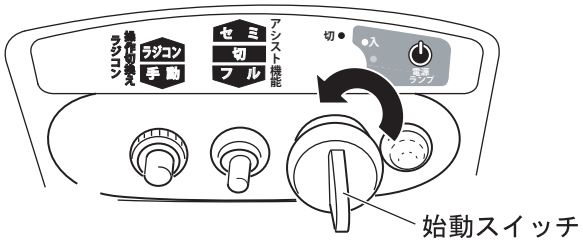
❍ ラジコン操作は、送信機には十分な電圧の乾電池、本機には十分に充電されたバッテリが必要です。操作ができないときは、送信機の乾電池を交換し、バッテリの点検、充電をしてください。(41 ページ参照)

❍ 安全のため各操作手順で最も優先されるのは「エンジン停止」です。次にスプレーホースの「巻取り」が優先されます。

4-16. エンジンの停止

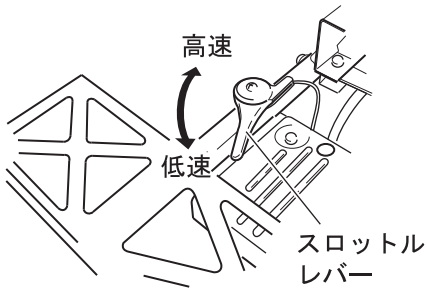
コントロールボックス

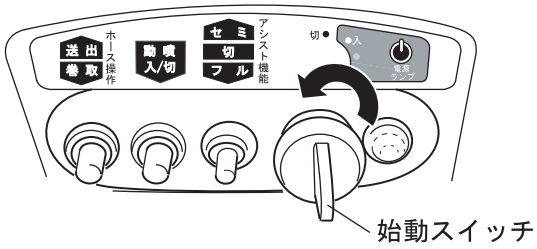




WDR817

1. エンジン低速ボタンを押し続けて、エンジン回転を低速にし、2 ～ 3 分間冷却運転をしてください。
2. 始動スイッチを「切」位置にして、エンジンを停止してください。





WDR617

1. スロットルレバーを「低速」位置にして 2 ～ 3 分間冷却運転をしてください。
2. 始動スイッチを「切」位置にして、エンジンを停止してください。

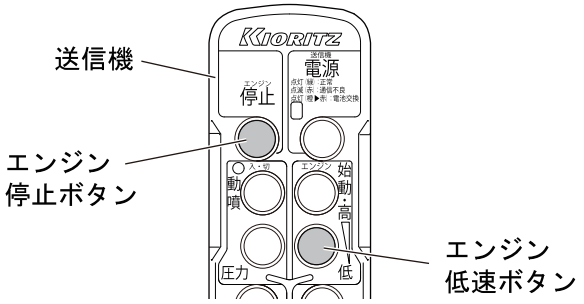
4-17. 送信機によるエンジンの停止

⚠ 警告

❍ **異常を感じた場合は、送信機のエンジン停止ボタンか、メインスイッチボックスの始動スイッチで、エンジンを停止してください。**
事故の原因となります。

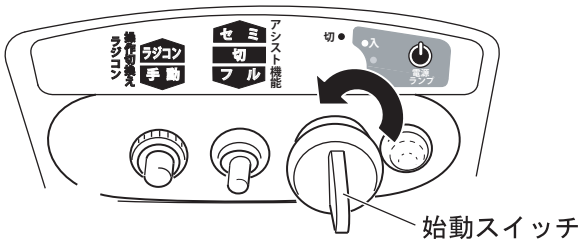
重要

❍ エンジン停止ボタンで停止した場合、安全のため、その後 7 秒間は全ての操作ができません。
❍ ホース巻取・ホース送出ボタンを同時に操作した場合、巻き取り操作が優先されます。
❍ エンジン停止ボタンと他のボタンを同時に押した場合、停止ボタンが優先されます。



WDR817

1. 送信機のエンジン低速ボタンを押し続けて、エンジン回転を低速にし、2 ～ 3 分間冷却運転をしてください。
2. 送信機のエンジン停止ボタンを押して、エンジンを停止してください。



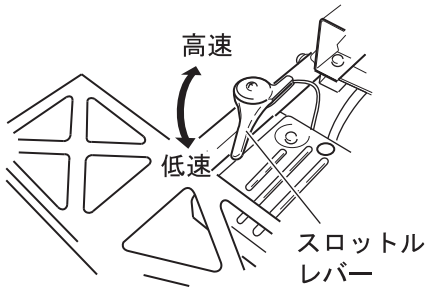
3. 始動スイッチを「切」位置にしてください。
   ＊ 電源パイロットランプが消灯します。

重要

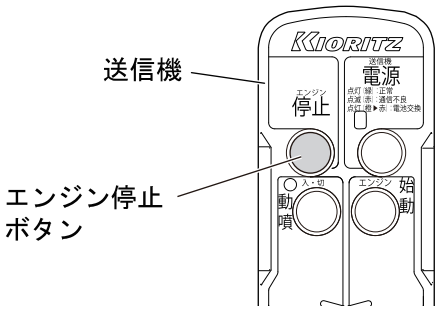
❍ エンジン停止後、始動スイッチ「入」状態で 30 分間操作されないと自動で電源が切れます。復帰するには始動スイッチ「入」にして再起動してください。

WDR617

1. スロットルレバーを「低速」位置にして 2 ～ 3 分間冷却運転をしてください。

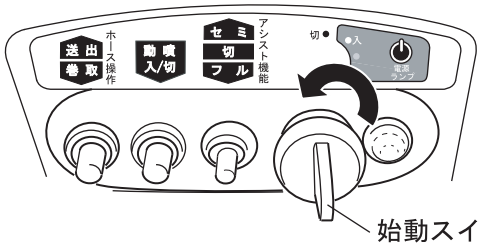


2. 送信機のエンジン停止ボタンを押して、エンジンを停止してください。



重要

❍ エンジン停止後、始動スイッチ「入」状態で 30 分間操作されないと自動で電源が切れます。復帰するには始動スイッチ「入」にして再起動してください。



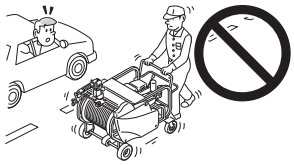
3. 始動スイッチを「切」位置にしてください。
   ＊ 電源パイロットランプが消灯します。

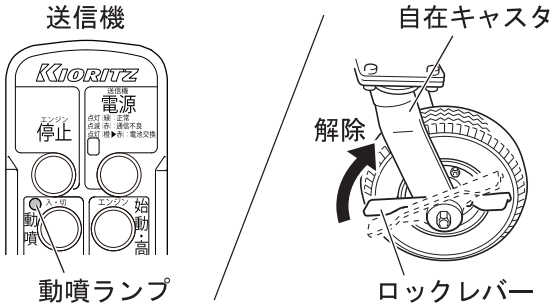
4-18. 走行

⚠ 警告

- **一般道路（公道）の走行はできません。輸送車に乗せて移動してください。**
- **製品に人や物を乗せないでください。**
- **周囲の安全を確認してから、移動してください。**
- **急発進、急ブレーキ、急旋回の操作をしないでください。**
- **最低地上高（40 mm）以上の凹凸がある場所では、製品を走行させないでください。**

事故の原因となります。

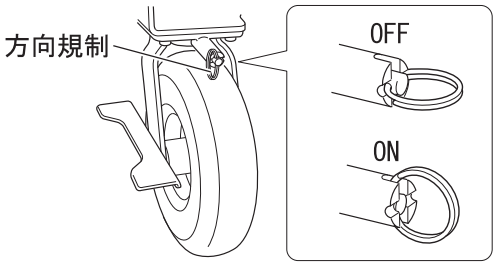




重要

- あらかじめ製品から吸水ホース、余水ホースを取り外しておいてください。

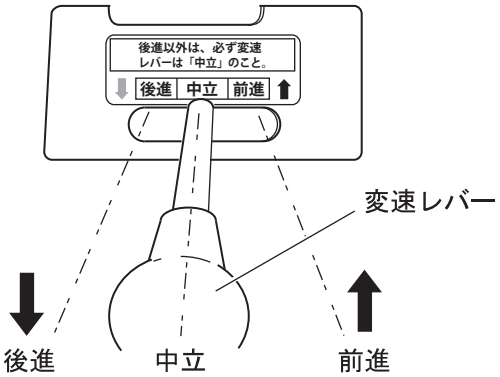
1. 送信機の動噴ランプが消灯していることを確認してください。
2. 自在キャスタのロックレバーを「解除」位置にしてください。
3. 方向規制を「ON」にすると直進に固定されます。

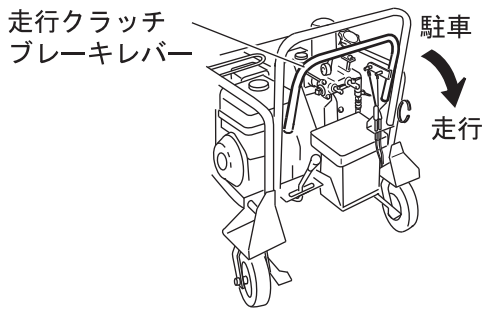


重要

- 走行時には方向規制を「OFF」にしてください。「ON」の状態で旋回をすると、キャスタが破損する恐れがあります。

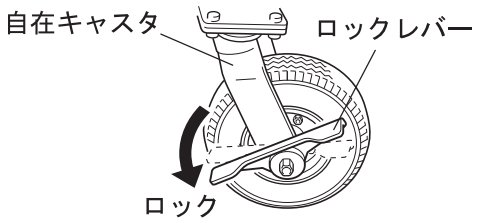
4. 変速レバーで変速位置を選択してください。





5. 走行クラッチブレーキレバーを「走行」位置にしてください。
6. スロットルレバーでエンジンの回転を調整してください。

4-19. 停止



1. 走行クラッチブレーキレバーを「駐車」位置にしてください。
2. 変速レバーを「中立」位置にしてください。
3. 自在キャスタのロックレバーを「ロック」位置にしてください。

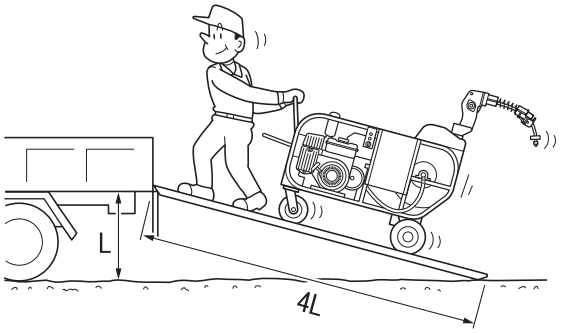
4. 作業の準備

4-20. 輸送

⚠ 警告

- **障害物のない平坦な硬い場所で積み降ろしをしてください。**
- **周囲を確認し、製品の周りに人を近づけないでください。**
- **アユミは強度、幅、長さ（地上から荷台床板までの高さの４倍以上のもの）が十分にあり、滑り止め、フックのあるものを使用してください。**
- **アユミは輸送車の荷台に平行に掛け、フックが外れないことを確認してください。**
- **操作者は製品の上側方向で操作し、急発進、急旋回をしないでください。**

転倒・転落などの事故の原因となります。



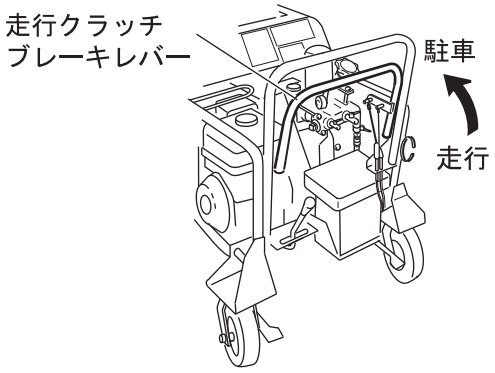
⚠ 注意

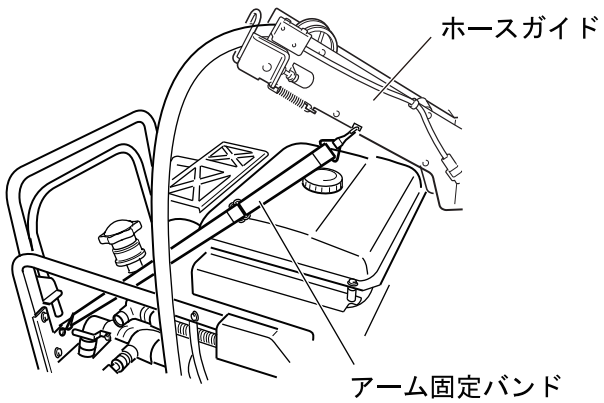
- **製品の重量や大きさに見合った輸送車を使用してください。**

事故の原因となる恐れがあります。

- **製品はロープで固定してください。**

レバーブロックやチェーンブロックで固定すると製品が破損し、思わぬ事故の恐れがあります。





1. 輸送車に積み込み後、走行クラッチレバー を「駐車」位置にしてください。
2. 始動スイッチを「切」位置にしてエンジンを停止し、エンジン、マフラを冷やしてください。
3. 自在キャスターのロックレバーを「ロック」位置にしてください。
4. 付属のアーム固定バンドで、ホースガイドを固定してください。
5. 製品を輸送車にロープで固定してください。

重要

- 製品に衝撃を与えないでください。
- 輸送車に固定するときは、製品のロープ掛けフック以外にロープを掛けないでください。
- 輸送車への積み降ろしのときは、方向規制を「ON」にしてください。

⚠ 警告

- **原則平地で作業してください。**
- **急傾斜地では使用しないでください。**
- **傾斜性能**
  前後の角度：15° 以下
  （アユミでの搭載時：瞬時では 20° 以下）
  左右の角度：10° 以下

事故の原因となります。

5. 作業方法

⚠ 警告

❍ **送信機で操作するときは、エンジンの始動、ホースの巻き取り、繰り出し時に、周囲に人がいないことを確認してください。**
ケガの原因となります。

5-1. スプレーホースの繰り出し

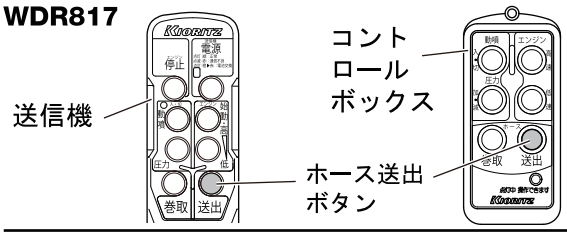
⚠ 警告

❍ **ホースの繰り出し・巻き取り中は、ホースガイドの周辺を触らないでください。**
回転部に巻き込まれ、ケガの原因となります。

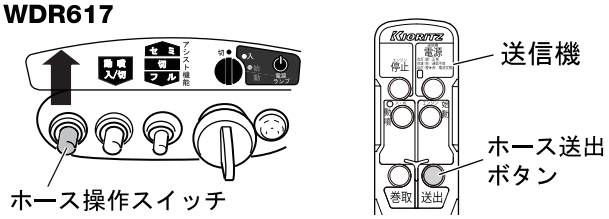
重要

❍ エンジン回転が低速のときは、繰り出しや巻き取りが断続またはされない場合があります。
❍ ホースは必要なだけ繰り出し、たるませないでください。ホースを破損させたり、他の機器を破損する恐れがあります。
❍ ホースを繰り出すときは、圧力をかけて繰り出してください。圧力を抜いたまま繰り出すと、ホースがつぶれて繰り出せない場合があります。その場合は、ホースを引っ張り、繰り出しを補助してください。
❍ ホースが繰り出されている時に、散布コックの開閉操作をしないでください。巻いてあるホースがゆるみ、正常な配列巻き取りができなくなり破損の原因となります。
散布コックの開閉操作は、ホース繰り出しが停止している状態でおこなってください。
❍ ホースを繰り出すときは、最後の 2 ～ 3 巻残したところで止めてください。全部繰り出すとホースを破損する原因となります。

WDR817



WDR617



WDR817

1. ホース送出し操作は、ラジコン（送信機）または、手動（コントロールボックス）のどちらかを選択できます。
2. ホース送出ボタンを操作すると、ホースが繰り出されます。
3. ホースの繰り出しを止めると、自動的にホースリールにブレーキがかかります。

WDR617

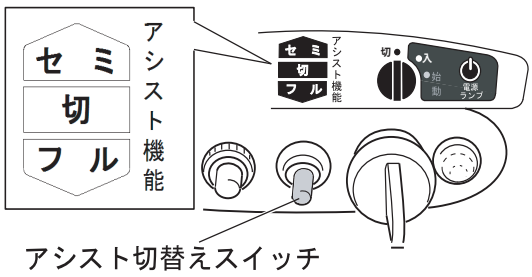
1. ホース操作スイッチまたは、ホース送出ボタンを操作するとホースが繰り出されます。
2. ホースの繰り出しを止めると、自動的にホースリールにブレーキがかかります。

■アシスト機能の切り替え

重要

❍ 本体側スイッチでアシスト機能が選べます。作業内容に合わせて選んでください。
❍ ホース巻き取り時に、アシスト機能が作動しホースが勝手に繰り出され作業に支障が出てしまう時に「セミ」アシスト機能を選択してください。設定すればホース巻き取り時にアシストは停止します。アシストの復帰、停止は送信機、本機のスイッチを操作してください。

5. 作業方法



1. 「フル」アシスト機能

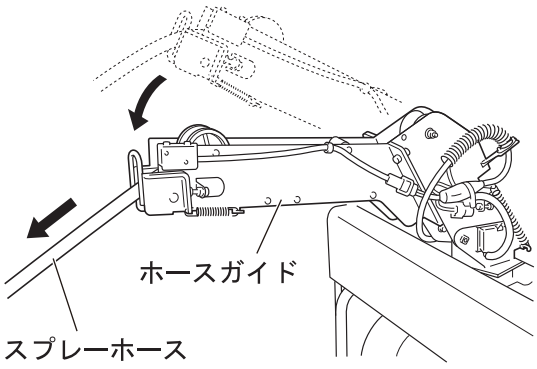
   ホースガイドが下がると一定時間スプレーホースが自動的に繰り出されます。ホースガイドが上がると停止します。
2. セミアシスト機能

   送信機ボタンとスイッチ操作でアシスト機能を停止、始動できる機能です。

   - スプレーホース巻き取り時はアシスト機能が停止されます。
   - アシスト機能を復帰させるには、送信機ボタンまたはホース操作スイッチによる繰り出しを行うとアシスト状態になります。巻き取り操作を行うとアシスト機能は停止されます
3. 「切」アシスト機能

   アシスト機能が停止されます。

■アシストによる繰り出し



1. ボタンやスイッチ操作をしなくてもスプレーホースを引っ張る事により、ホースが繰り出されます。
2. スプレーホースを手で引くとホースガイドが下がりスプレーホースが自動的に繰り出せます。約 3 秒間繰り出しが続きますが、ホースガイドが上がると繰り出しが停止されます。

重要

- 上方向に繰り出すときは、送信機またはメインスイッチボックスで操作してください。
- アシストによりホースが繰り出されている途中に、送信機の操作をおこなっても、安全のため、全ての操作が出来なくなっています。

5-2. スプレーホースの巻き取り

⚠ 警告

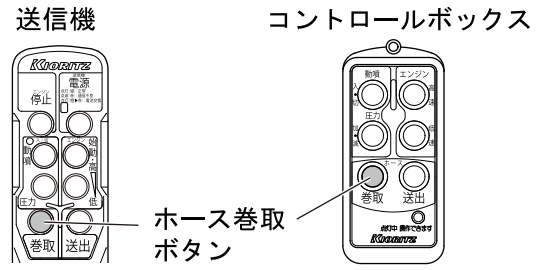
- **ホースを巻き取るときは、身体に巻き付けないでください。**
- **ホーススストッパが取り付けられていることを確認してください。**

ケガや事故を起こす原因となります。

重要

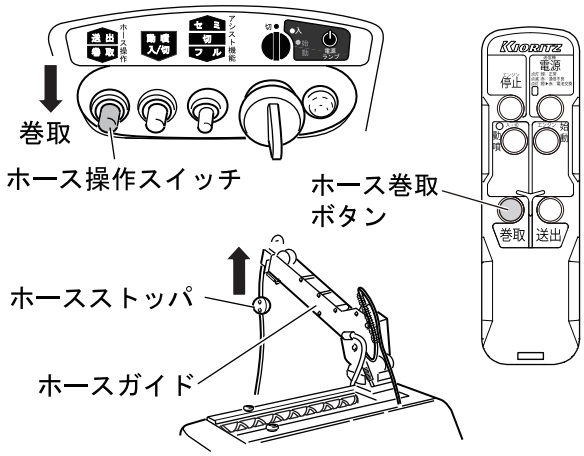
- ホースに圧力をかけたまま巻き取ってください。圧力を抜いて巻き取るとホースがつぶれて巻き取られ、圧力がかかったときにホースリールが破損する恐れがあります。
- ホースガイドをホースを繰り出した方向へ向けてください。ホースを無理に引かないでください。
- 巻き取られていないホースが残り少なくなったら、エンジンを低速にしてゆっくり巻いてください。
- 異常な抵抗がかかったまま、ホースを巻き取らないでください。ホース、巻き取り装置が破損する原因となります。
- ホースリール下側にスプレーホースが弛んだままの状態で巻取りすると、正常な並列巻取りができません。そのような場合には、スプレーホースを手動で引き出して弛みをなくしてから巻き取ってください。

5. 作業方法



WDR817

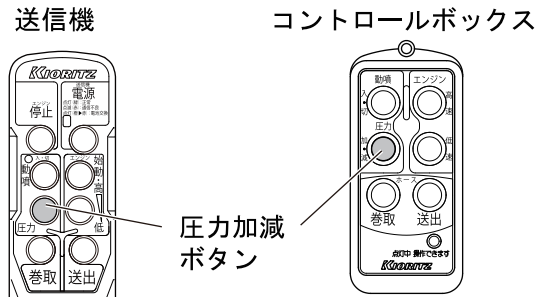
1. ホースを繰り出している方向にホースガイドを向けてください。
2. ホース巻き取り操作は操作切り替えラジコンスイッチでラジコン（送信機）手動（コントロールボックス）のどちらかを選択できます。
3. ホース巻取ボタンを操作すると、ホースが巻き取られます。
4. ホーストッパがホースガイドに当たると自動的に巻き取りを停止します。



WDR617

1. ホースを繰り出している方向にホースガイドを向けてください。
2. ホース操作スイッチまたはホース巻取ボタンを操作するとホースが巻き取られます。
3. ホーストッパがホースガイドに当たると自動的に巻き取りを停止します。

5-3. 圧力の操作

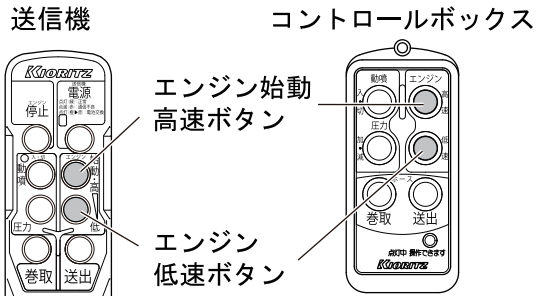


WDR817

1. 圧力の加圧、減圧の操作は操作切り替えラジコンスイッチでラジコン（送信機）または、手動（コントロールボックス）のどちらかを選択できます。
2. 圧力加減ボタンを押す毎に圧力設定を加圧から減圧に切り替えます。

＊ この操作は動噴「入」状態のときのみ操作可能です。

5-4. スロットルの操作



WDR817

1. エンジンスロットルの操作は、操作切り替えラジコンスイッチでラジコン（送信機）または手動（コントロールボックス）のどちらかを選択できます。
2. コントロールボックスの高速、低速ボタンまたは送信機のエンジン始動高速ボタンを押してエンジン回転を調整します。最低速から最高速までの時間は約5秒です。

5-5. 散布作業

⚠ 警告

❍ **日中を避け、涼しい朝、夕方に行ってください。**

気温が上がると農薬が空気中に上昇したり、気化し、薬害を引き起こす恐れがあります。

❍ **風が強いときは散布作業をしないでください。**
❍ **風下を向き、風を背中に受けるようにして後ろ側へ進みながら散布してください。**

薬液が予期しない方向へ飛び、薬害事故の原因となります。

❍ **作業関係者以外の人・家畜・養蚕・養蜂・他の作物などが近くにないことを確認してください。**

無防備な第三者の薬害事故や、環境被害の原因となります。

❍ **散布作業中にタバコを吸ったり、飲食をしないでください。**

タバコや飲食物に付着した農薬が、体内に入る恐れがあります。

❍ **散布作業をするときは製品をしっかり固定してください。**
❍ **製品を移動しながら散布作業をしないでください。**

転倒・落下して、ケガや事故を起こす原因となります。

❍ **ホースは適正圧力範囲内で使用してください。**

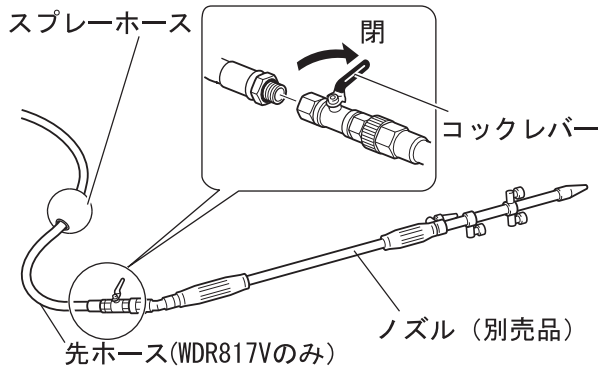
ホース破損や薬液事故を負う恐れがあります。

❍ **製品の運転中および停止後しばらくの間は、マフラなどの高温部に触れないでください。**
❍ **エンジンに絡み付いた草などを取り除くときは、エンジンを停止してください。**

高温部に触れると火傷したり、回転部に触れるとケガや事故を起こす原因となります。

❍ **散布ノズルを人に向けないでください。**

薬害事故の原因となります。

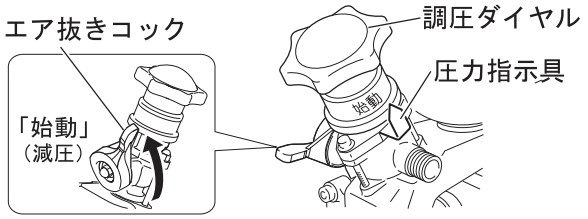


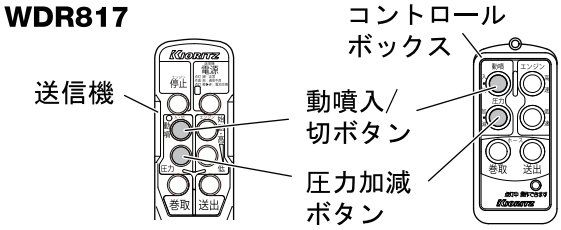
⚠ 注意

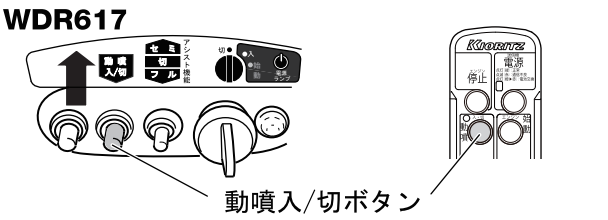
❍ **コックレバーはあらかじめ「閉」位置にしてください。**

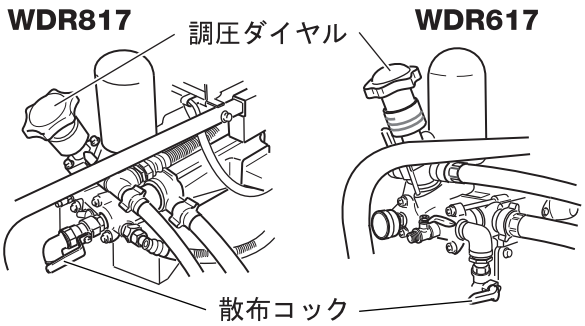
動噴の運転により生じる水流によって、ホースがあばれて、事故の原因となる恐れがあります。

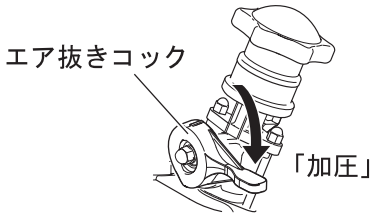
5. 作業方法

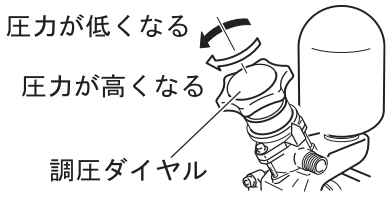












1. 調圧ダイヤルの「始動」位置を圧力指示具に合わせてください。
2. エア抜きコックを「始動」（減圧）位置に合わせてください。

重要

- エア抜きコックは、「加圧」または「始動」（減圧）へ確実に合わせてください。
  圧力が上がらなかったり、エア抜きコックの故障の原因となります。
- 必ず無圧状態のときに、動噴入 / 切操作をしてください。加圧状態で動噴「入」操作を行うと電磁クラッチの破損につながります。

3. 動噴入 / 切スイッチまたはボタンで動噴を作動させてください。
   ＊ WDR817 のみ
   圧力加減ボタンを操作して加圧状態にしてください。

重要

- 始動スイッチを「切」位置にすると、自動的に動噴は切 / 圧力は減圧に切り替わります。

4. 吸水が始まったらエア抜きコックを「加圧」位置に合わせてください。
5. 動噴の散布コックを「開」位置にしてください。
6. 調圧ダイヤルを回し、作業内容に合った圧力に設定してください。
7. 散布用ランスのコックバルブを「開」にして散布をしてください。

重要

- 散布コックを中間位置で止めないでください。
- 長時間使用すると動噴のエアチャンバの空気が水に溶け、抜けてしまうことがあります。故障の原因となるので、必ず 2 時間毎に吸水ストレーナを水から出し、余水ホースから水が出なくなるまで運転してください。
- ホースが絡まったり、ねじれたりしないようにしてください。

⚠ 警告

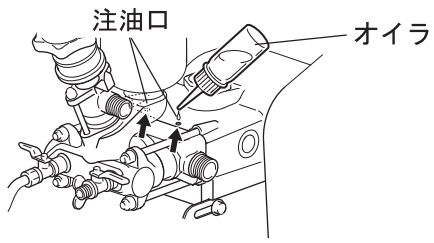
- **原則平地で作業してください。**
- **急傾斜地では使用しないでください。**
- **傾斜性能**
  前後の角度：15° 以下
  左右の角度：10° 以下

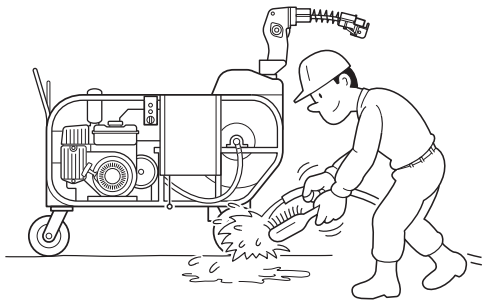
  事故や製品不具合の原因となります。

5-6. 作業終了後

⚠ 警告

❍ **農薬散布直後のほ場に無防備で入らないでください。**
❍ **薬液が乾くまで「立入禁止」の表示を置いて、第三者の立入を禁止してください。**
薬害事故の原因となります。





1. 吸・余水ホースをきれいな水の中に入れて噴霧を行ない、動力噴霧機の内部、ホース、ノズルの清掃をしてください。
   製品の外側や車輪に付いている泥などの汚れた部分を洗ってください。
2. 吸水ストレーナを使用毎に清水で掃除してください。詰まっていると脈動や振動の発生原因となります。
   ＊ 洗った水は外部に破棄しないでください。
3. 動噴内の水を抜くため、圧力を下げて吸水ホースを水から出して余水ホースから空気が出るまで運転を続けてください。

重要

❍ 空運転の状態となるので、5 分以上運転をしないでください。
❍ 運転中に注油口からオイルを 10 滴ほど注油してください。
❍ 製品の外側、車輪を洗うときは、電気系統部品や操作部に水をかけないでください。
❍ 洗浄機などによる高圧洗浄をしないでください。故障の原因になります。

6. 点検・整備

⚠ 警告

❍ **エンジンが停止し、冷えた状態で点検・整備をしてください。**
火傷の原因となります。

重要

❍ お買い求め頂いた製品を安全にご使用いただくために、定期的に点検・整備を行なってください。
❍ 1 年に 1 回以上は、お買い求めの販売店に、定期点検を依頼してください。
点検・整備には専門的な知識が必要です。ご自分できない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
❍ 毎月、毎年の点検・整備をした日付を記録してください。
❍ 動噴・エンジン・バッテリは各付属の取扱説明書を参照して、点検・整備を行なってください。
❍ 交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。
処理は購入した販売店にご相談ください。
自然環境や動植物の生態系に影響を及ぼすことがあり、みだりに捨てると罰せられます。

6-1. 潤滑油について

❍ 潤滑油は潤滑作用の他、冷却・洗浄作用があります。機械の性能・耐久性と重大な関係があるので、規定の使用時間により指定の油を適量給油してください。

点検・整備項目	整備内容	使用毎	作業 20 時間毎	作業 50 時間毎	100 時間毎／毎年	参照ページ
注油口	注油	○ ※1				16
移動枠ガイド軸	グリース	○				36
トラバースカム軸	グリース	○				36
ホースリール軸	グリース	○				36
ホースガイドローラ軸	給油		○			36
ホースリールテンショナー支点	給油			●		-
走行クラッチレバー支点	グリース			●		7
動噴クラッチレバー支点部	給油			●		7
ワイヤ	給油			●		7
エンジン：エンジン減速機	オイル交換			● ※2,3		16,37
動噴：走行ミッション	オイル交換				○ ※4,5	16,36
駆動チェーン	給油				● ※6	-

※1：使用毎、作業終了後
※2：初回 20 時間、以降 50 時間毎
※3：種類；エンジン取説参照、規定量；エンジン取説参照
※4：初回 50 時間、以降 100 時間毎、白濁している場合は交換
※5：種類；エンジンオイル SD または SE 級 SAE#30、規定量；1.1 L (WDR817)、0.65 L (WDR617)
※6：毎年

○：ご自分で点検・整備してください。
●：製品の性能維持のため、お買い求めの販売店に定期的な点検を依頼し必要に応じ交換してください。

6. 点検・整備

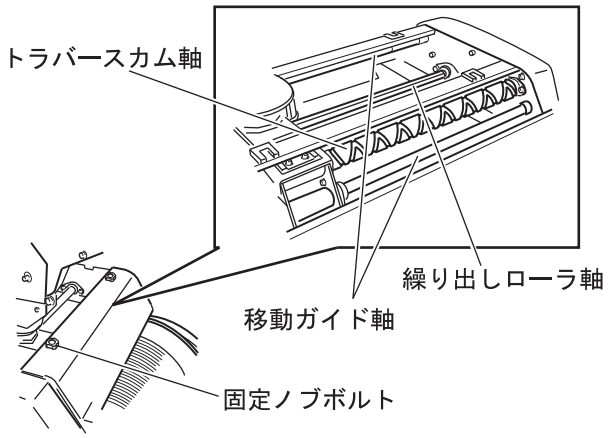
6-2. 各部の点検

- ❍ 製品の点検、調整を怠ると事故の原因となることがあります。常に点検を行なって、製品を正常な状態に保つことが安全につながります。必ず実施してください。
- ❍ 始業点検は、使用者の方が行なってください。
- ❍ 点検して異常があった場合は、速やかにお買い求めの販売店へ修理を依頼してください。
- ❍ ご不明な点は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

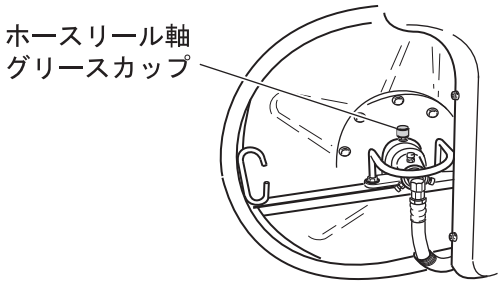
項目	点検・整備内容	点検・整備時期			
		始業前	初回 5 時間	100 時 間毎	使用 時期毎
V ベルト	ベルトの張りは適正か		○	●	
	亀裂、損傷はないか		○	●	
燃料	燃料タンクに燃料は入っているか	○			
	燃料キャップは確実に締まっているか	○			
可燃物の付着	製品およびエンジンに草、屑などの可燃物が付着していないか	○			
エンジンスイッチ	エンジンが始動・停止するか	○			
マーク類	マークのはがれ、脱落、損傷はないか	○			
フレーム	亀裂、変形、腐食はないか				●
足回り	タイヤの空気圧は適正か	○			
	タイヤ、リム、ハブの亀裂、損傷はないか	○			
エンジン・減速機	オイルの量は適切か	○			
	オイルの漏れはないか	○			
カバー類	カバー類に亀裂、変形、損傷はないか				●
	カバー類に脱落はないか	○			
変速レバー	変速位置に入るか	○			
走行クラッチレバー	スムーズな発進と、確実に停止できるか	○			
動噴	オイルの量は適切か	○			
	オイルの漏れはないか	○			
バッテリ	バッテリ端子にゆるみ、汚損はないか	○			
	バッテリ液の量は適切か	○			
駆動チェーン	チェーンの張りは適正か		○		●
ホース類	ヒビ割れ、亀裂、摩耗、硬化はないか	○			
移動枠の駒	摩耗していないか				●

○：ご自分で点検・整備してください。
●：製品の性能維持のため、お買い求めの販売店に定期的な点検を依頼し必要に応じ交換してください。

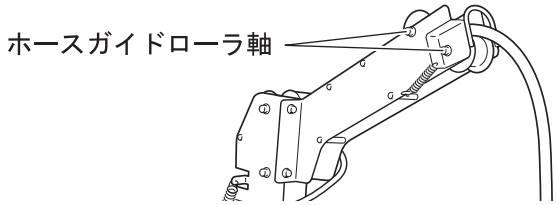
6-3. 各部の注油・給油



1. トラバースカバーは固定ノブボルトで開閉可能です。作業後に各軸（4 本）にグリースを塗布してください。

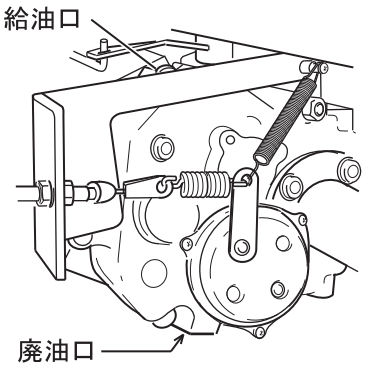


2. ホースリール軸グリースカップにグリースを十分注入し、ねじ込んでください。グリースが不足のときは補充してください。



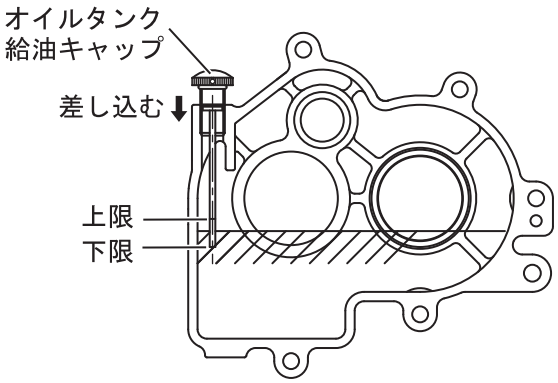
3. ホースガイドローラ軸に給油してください。

6-4. 走行ミッションオイルの交換



1. 走行ミッション廃油口からオイルを捨ててください。推奨オイルを給油口から入れてください。
   * 推奨オイル：ギヤオイル# 90　500cc

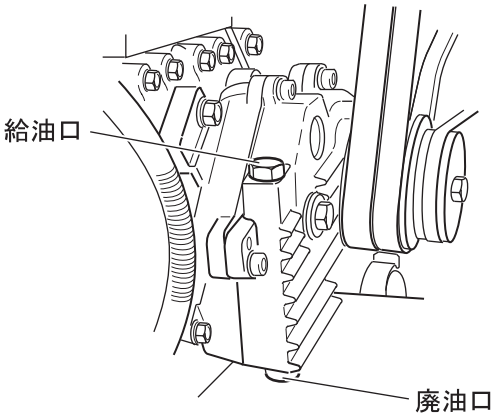
6-5. エンジン減速機オイルの点検・交換



点検

1. オイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルをふき取ってください。
2. オイル給油キャップを差し込んでください。
3. 給油口にあたった位置でオイル給油キャップを抜き取り、オイル量を確認してください。
4. 不足分は推奨オイルを補給してください。

＊ 推奨オイル：ギヤオイル# 90

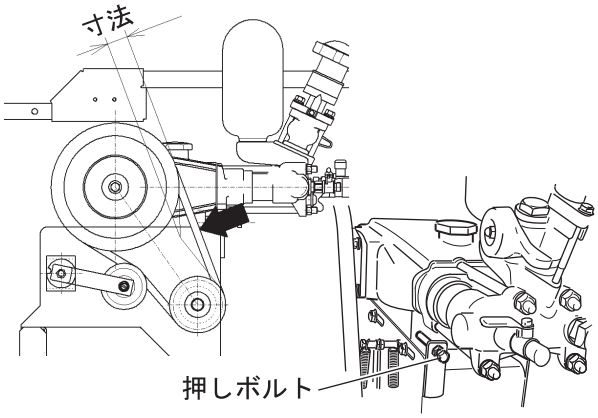


交換

1. エンジン減速機のオイルは廃油口からオイルを捨ててください。推奨オイルを給油口から入れてください。

＊ 推奨オイル：ギヤオイル# 90　200cc

6-6. ポンプベルトの点検・調整

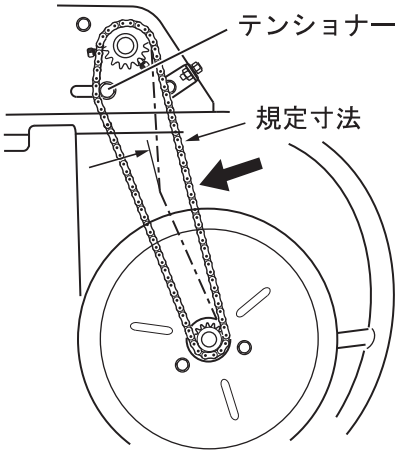


ベルト中央をバネはかりなどで矢印方向に約 3～4 kg の力をくわえて、規定寸法になるように確認してください。

＊ 規定寸法：10 mm

1. M8 ナットをゆるめて、押しボルトを締め付け、ベルトの張りを適性にしてください。
2. 調整後、M8 ナットで固定してください。
3. ボルトの締め付け量 5 mm を超えるときは販売店に持ち込んでください。

6-7. トラバースチェーンの点検・調整

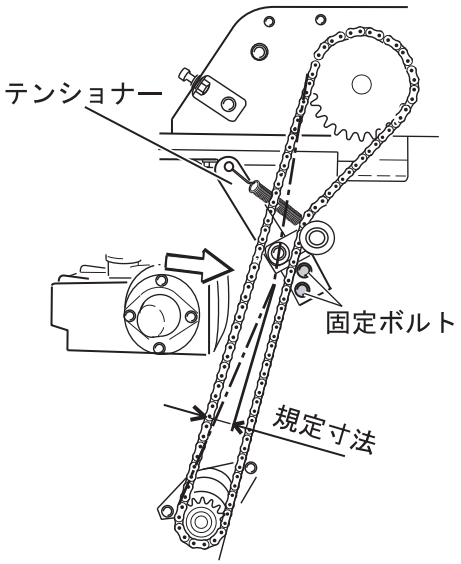


チェーン中央をバネはかりなどで矢印方向に約 1 kg の力をくわえて、規定寸法になるように確認してください。

＊ 規定寸法：5 ～ 9 mm

1. チェンの張りが適性になるように、テンショナーで調整してください。

6-8. 繰り出しチェーンの点検・調整



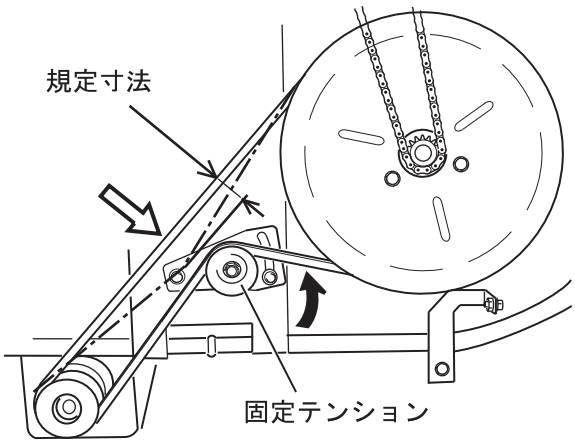
チェン中央をバネはかりなどで矢印方向に約 1 kg の力をくわえて、規定寸法になるように確認してください。

＊ 規定寸法：6 ～ 10 mm

1. 固定ボルト 2 箇所をゆるめてください。
2. テンショナーを矢印の方向に移動させ、チェンの張りが適性になるように調整してください
3. 固定ボルト（2 箇所）で固定してください。

重要
❍ チェンは規定寸法になるように張ってください。必要以上の力で張ると故障の原因になります。

6-9. ホースリールベルトの点検・調整

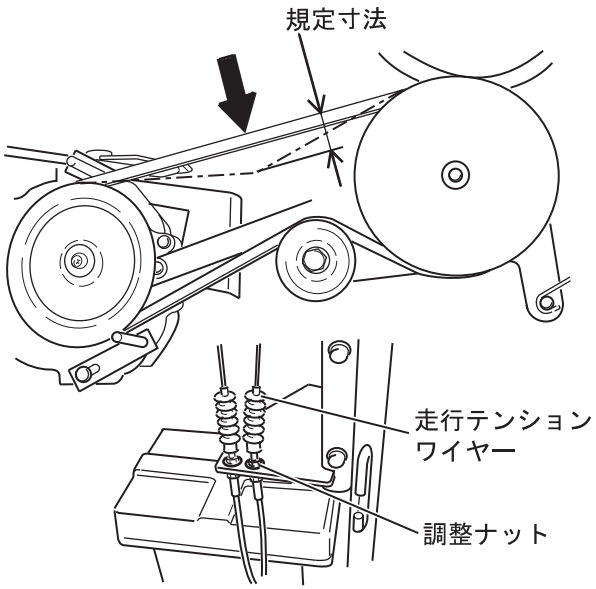


ベルト中央をバネはかりなどで矢印方向に約 3 ～ 4 kg のカをくわえて、規定寸法になるように確認してください。

＊ 規定寸法：10 mm

1. 固定テンションの M8 ナットをゆるめてください。
2. 固定テンションの位置を矢印の方向に移動させベルトの張りを適正にしてください。
3. 調整後 M8 ナットを固定してください。

6-10. 走行ミッションのベルト点検・調整

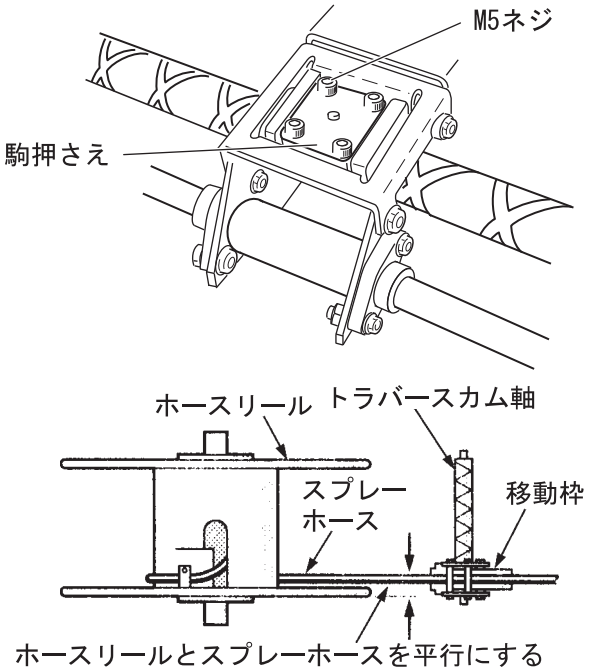


走行クラッチレバーを走行の位置にしてください。ベルト中央をバネはかりなどで矢印方向に約 2.5 ～ 3 kg の力を加えて、規定寸法を確認してください。

＊ 規定寸法：10 mm

1. 走行テンションワイヤーの調整ナットによりベルトの張りを適性にしてください。
2. 調整後、調整ナットを適性にしてください。

6-11. 移動枠駒の交換



スプレーホースが並列に巻き取られず局所で巻き取られる場合は、並列巻装置の移動枠駒が消耗しています。以下の要領で新品と交換してください。

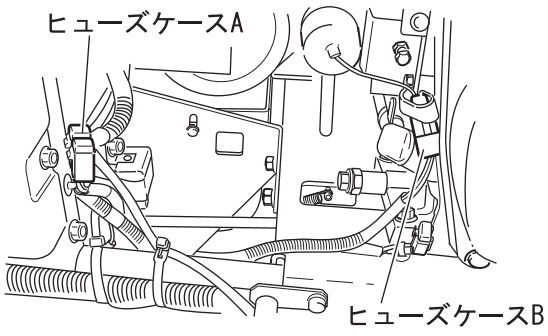
1. 上部カバーを外してください。
2. 駒押さえを取り付けている M5 ネジ（4 本）を外し、駒押さえ、移動枠駒を外してください。
3. スプレーホースを全部引き出してください。
4. 移動枠の中心をスプレーホースとホースリールと平行の位置にしてください。
5. 移動枠駒をトラバースカム軸の溝にはめ込んでください。
6. 駒押さえを押し付け、M5 ネジで締め付けてください。
7. スプレーホースを巻き取ってください。

＊ 部品組み込みの際、グリースを適量注入してください。

6-12. タイヤの点検

❍ タイヤの空気圧が低い場合は補充してください。
　＊ 標準空気圧：0.25 MPa(2.5 kgf/cm^2)
❍ 損傷がある場合は、新品と交換してください。

6-13. ヒューズの交換

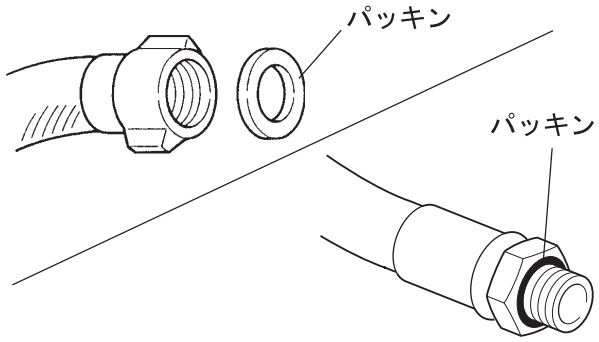


ヒューズが切れたら、ヒューズケースを開けて交換してください。
❍ ヒューズケース A
　　10A：電源系
　　15A：制御機器
❍ ヒューズケース B
　　15A：エンジンソレノイド
＊ 推奨ヒューズ：ミニブレードヒューズ

重要
❍ 指定ヒューズ以外は使用しないでください。

6-14. ホース類の点検

⚠ 警告
❍ **ホースが劣化したり漏れがあるときは、新品に取り替えてください。** 薬害事故を負う原因となります。



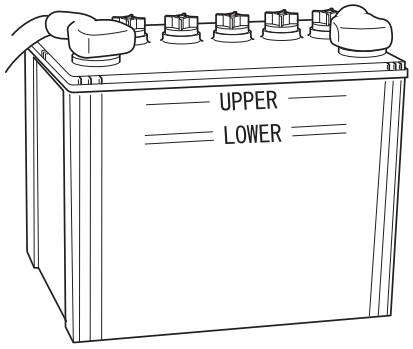
各ホースの外観、継手パッキンの点検をしてください。

重要
❍ ホースは古くなると硬化し、亀裂などが起こりやすくなります。使用前にホースの点検をしてください。

6-15. バッテリの点検・清掃・交換

⚠ 警告

❍ **バッテリ液の取り扱いは、バッテリの取扱説明書を参照してください。**
事故の原因となります。



⚠ 警告

❍ **充電するときは、換気をしてタバコなどの火気は近づけないでください。**
❍ **充電中にバッテリテスタを使用しないでください。**
火災の原因になります
❍ **バッテリを扱うときはゴム手袋またはビニール手袋、保護めがねをしてください。**
火傷をしたり失明する原因になります。

重要

❍ 使用済のバッテリの処理は、購入した販売店に依頼してください。

充電状態が不十分だと、電気制御部分の故障の原因となります。

❍ 点検

1. バッテリ付属の取扱説明書を参照して、点検をしてください。
2. バッテリ液が注入口内の液面指示まで満たないときは、蒸留水を補充してください。
3. バッテリ端子がバッテリターミナルに完全に接続しているか確認してください。

❍ 清掃

バッテリの上面と側面またはターミナルが汚れていたら、水またはぬるま湯で清掃してください。
ターミナルは防錆のため、ワセリンかグリースを薄く塗ってください。

❍ 充電

1. 製品から取り外して充電器で充電してください。
バッテリターミナルからバッテリ端子を取り外してください。
2. バッテリ端子は、(−) 側から取り外してください。
3. 急速充電器で大電流を流すとバッテリの極板を傷めます。12 V 充電器を使用してください。
4. バッテリ端子には (＋) 側を先に接続してください。
5. バッテリ端子カバーは、必ず取り付けてください。
6. バッテリはたえず放電し、約 3ヶ月で使用不可能になります。長期間本製品を使用しない場合は、1ヶ月に 1 度は必ずバッテリ液の量を確認し、補充電してください。

❍ 交換

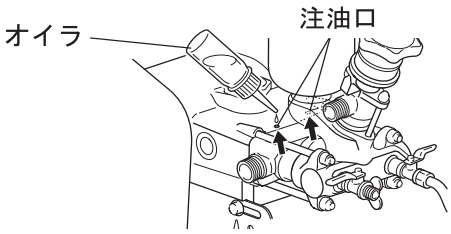
指定のバッテリ (45 ページ参照) と交換してください。

7. 保管

⚠ 警告

❍ **燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のあるそばには保管しないでください。**
火災の原因となります。

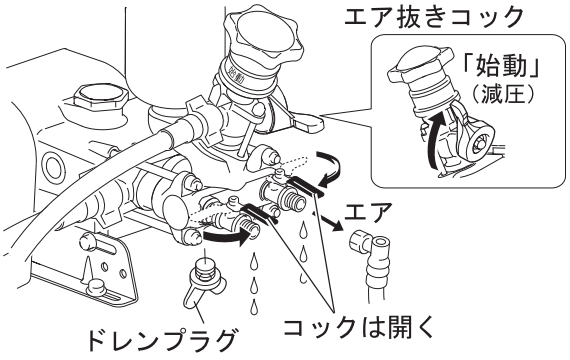
❍ **製品を長期間保管するときは、次の手順で整備をしてください。**



1. きれいな水を数分間噴霧し、配管内各部を洗浄してください。
2. シリンダ下部のドレンプラグを外して、エア抜きコックを「始動」（減圧）位置に合わせて、1 分間カラ運転をして完全に水抜きしてください。
3. 運転中に注油口からオイルを 10 滴ほど注油してください。

重要

❍ 水抜きをする動噴のカラ運転は、5 分以下としてください。カラ運転による破損は、保証の対象外になります。



凍結の恐れがある場合は、さらに次の操作を行なってください。

4. 吐出コック部のホース継手金具を外し、スプレーホースの端部からエアを吹き込み、スプレーホース内の残液を放出してください。
5. 動噴のドレンプラグを外し、水抜きをしてください。
6. 凍結を防ぐためには、不凍液（または自動車用ウインドウォッシャー液）を配管内各部に充填する方法もあります。その場合は動噴・ホース内の水を抜いてから、水と不凍液（または自動車用ウインドウォッシャー液）の混合液を充填してください。
   ＊ 混合液の濃度は、不凍液（または自動車用ウインドウォッシャー液）に付属の説明書を参照してください。

重要

❍ 寒冷時に保管するときは、凍結による破損を防ぐため、各部の水抜きを完全に行なってください。凍結による破損は、保証の対象外となります。
❍ 環境汚染の原因になる恐れがあるので、凍結防止に使用した不凍液は、不凍液に付属の説明書を参照して回収してください。不凍液は直接外部に破棄しないでください。
❍ 長期間使用しない場合には、送信機の乾電池は必ず外してください。液モレにより送信機が故障する原因となります。

7. 本書に定められた定期的な点検をしてください。
8. スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。
9. バッテリの端子を取り外し、バッテリを製品から取り外してください。次回の作業に備え、バッテリを充電してから子供の手の届かない風通しの良い場所に保管してください。
   ＊ (−) 側の端子、(＋) 側の端子の順序に取り外してください。
10. 送信機の電池を抜いてください。
11. 製品を子供の手の届かないホコリの少ない乾燥した場所に保管してください。

8. 故障対策

8-1. 故障診断表

重要
❍ **補用品や消耗品は、必ず純正部品または指定品を使用してください。** 他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると、故障の原因となる場合があります。

❍ 使用中に不具合が起きたときは、動噴、エンジン、バッテリの取扱説明書、または下記の表を参照してください。

不調の状況	原因	処置
吸水しない、または途中から吸水しなくなった	1. 吸水ホースが破損、または折れている 2. 吸水ホースとニップルが締め付け不良、またはパッキンの脱落 3. 吸込ストレーナが液面に浮き上がっている 4. 吸込ストレーナの周りにゴミが付着している 5. 動噴の吸・排水弁に砂、ゴミが付着している 6. 動噴の吸・排水弁が摩耗している 7. 水シールが摩耗して空気を吸っている	1. 交換、またはのばす 2. パッキンが入っていることを確認して締めなおす 3. 浮き上がらないように固定する 4. ゴミを取り除き、清水でよく洗う 5. 動噴の取扱説明書を参照して、よく洗い落とす 6. 新品と交換する 7. 新品と交換する
余水ホースから気泡が出る	1. 吸水ホースの取り付けネジがゆるんでいる 2. 吸水ホース用パッキンがすり切れている 3. シリンダ、弁室の締め付けナットがゆるんでいる 4. 水シールが摩耗している	1. パッキンが入っていることを確かめてから締めなおす 2. 新品と交換する 3. ナットを交互に増締めする 4. 新品と交換する
圧力が上がらない	1. ノズルからの噴霧量が多く、余水がない 2. 調圧弁、調圧弁座が摩耗している 3. ピストンパッキンが摩耗している	1. 全吐出量の 10 % 以上を余水に戻すようノズルを交換する 2. 新品と交換する 3. 新品と交換する
圧力を調整したのち散布を始めると圧力の降下がはげしい	下記のいずれかが原因で余水量が吸水量の 10 % 以下である（吐出過多） 1. 動噴回転数が不足している 2. 噴口が摩耗して散布量が多すぎる 3. 噴頭数が多すぎる	1. 回転を上げる 2. 新品と交換する 3. 数を減らす
スプレーホースの巻き取り（または繰り出し）が不調	1. 受信機の受信状態が悪い 2. ホースリール V ベルトのゆるみ 3. 中間軸の電磁クラッチの摩擦面にゴミ・油分などが付着している 4. 移動枠の動きが悪い	1. 周辺の障害物を取り除くまたは、受信できる位置に本体を移動する 2. V ベルトの張りを調整する 3. 摩擦面を掃除する 4. 各部に給油をし、動きを確認する (36 ページ以降参照) または、販売店で新品と交換する
ラジコンが作動しないまたは不調	1. ラジコンが作動しない 2. 受信機内のヒューズが切れている 3. エンジン低回転による電圧低下 4. 送受信機が誤作動を起こす	1. 乾電池を全て新品と交換する (アルカリ単三 3 本) 2. ヒューズを交換する 3. エンジンの回転をあげる 4. 最寄の販売店にご相談ください
始動スイッチを「入」にしても電源が入らない	1. 10A ヒューズが切れている 2. バッテリが上がっている 3. バッテリコードが外れている	1. ヒューズ（10A）を交換する 2. バッテリを充電または新品と交換する 3. コード端子を接続する (10 ページ参照)
エンジンが停止できない	1. 始動スイッチが破損している	1. 新品と交換する

8. 故障対策

不調の状況	原因	処置
圧力の切り替えができない（817 のみ）	1. 圧力切り替え用モータ部のコック開閉の動きが悪い	1. 販売店でコックの取り付け位置を調整する 2. 販売店でコックを交換する

❍ 表中に記載されていない故障、ご不明な点はお買い求めの販売店にご相談ください。

8-2. 製品の破棄

❍ 製品や部品を廃棄するときは、お買い求めの販売店に相談するか、自治体の指導に従ってください。

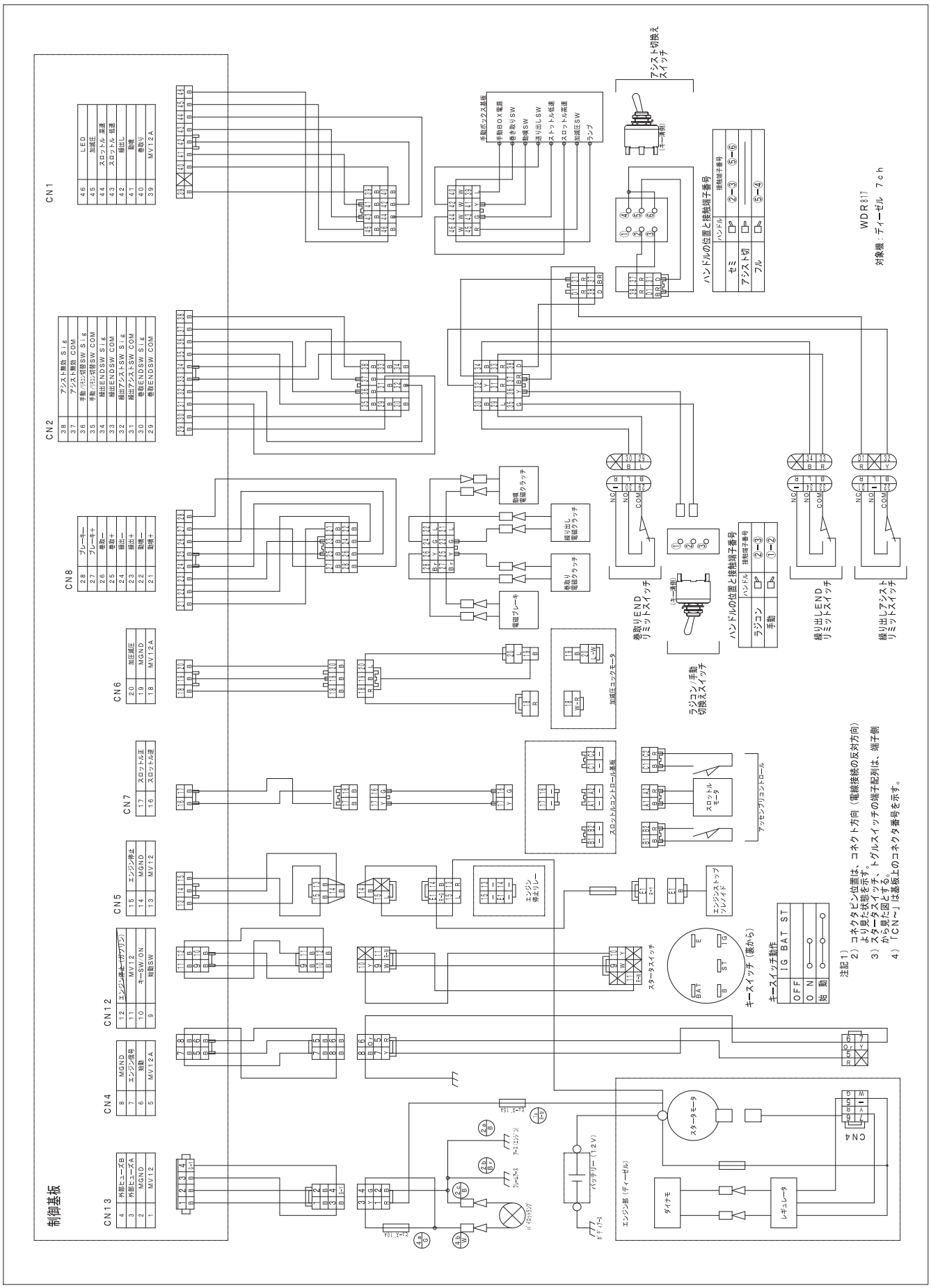
9. 仕様

項目		単位	WDR817V-14A	WDR617V-10A
長さ × 幅 × 高さ		mm	1390×825×1340	
質量		kg	290	255
動力噴霧機	型式	-	SP817	SP617
	回転数	rpm	745	783
	常用圧力	MPa(kgf/cm^2)	5.0 (50)	
	吸水量	L/min	59.5	38
	駆動方式	-	V ベルト駆動（電磁クラッチ）	
エンジン	型式	-	ヤンマーディーゼルエンジン L100(15A)	ヤンマーディーゼルエンジン L70(15A)
	排気量	mL	435	320
	最大出力	kW (PS)	6.8 (9.3)	4.8 (6.5)
	燃料	-	JIS2 号　軽油	
	タンク容量	ℓ	13	
	始動方式	-	セルスタータ方式	
バッテリ		-	40B19R	
送受信機	電波種類	-	特定小電力無線（429MHz）	
	通信方法	-	双方行通信	
	送信機電源	-	アルカリ単三乾電池、3 本	
	アンテナ方式	mm	内蔵式	
ラジオコントロール機能		-	エンジン始動－高速、エンジン停止、ホース巻き取り、ホース繰り出し、動噴駆動、エンジン低速、圧力加圧－減圧	エンジン始動、エンジン停止、ホース巻き取り、ホース繰り出し、動噴駆動
巻取装置	巻き取り方式	-	自動並列巻き取り	
	駆動方式	-	V ベルト駆動（電磁クラッチ）	
繰出装置	繰り出し方式	-	強制摩擦ローラ方式	
	駆動方式	-	ローラチェーン（電磁クラッチ）	
スプレーホース		φmm×m	φ14×130	φ10×130
走行部	変速段数	-	前進 1 段 / 後進 1 段	
	走行速度	km/h	2.0/2.0	
	駐車ブレーキ	-	内拡式ブレーキ	
	タイヤ、キャスタ	MPa(kgf/cm^2)	0.25 (2.5)	

＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

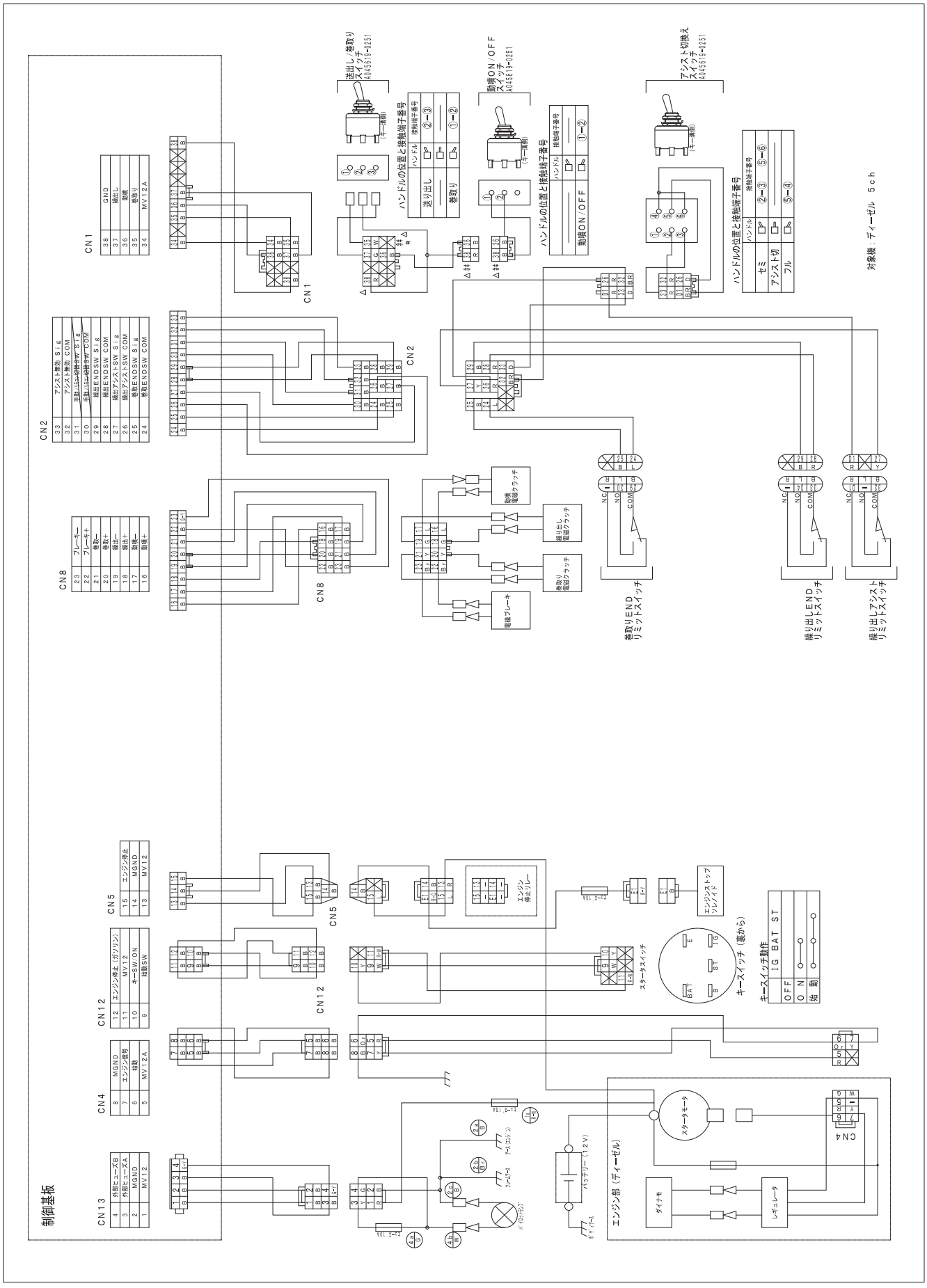
10. 配線図

WDR817



10. 配線図

WDR617



株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0120-176-181(製品・技術的な問い合わせ)
受付時間:弊社営業日　9:00～12:00 / 13:00～17:00

やまびこジャパン株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0428-32-6181 (代)

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X753-009461
X753615-5802　　2507d 0477 ES

(C) 2024 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。